

# 川崎市地域自立支援協議会

## 年間活動報告書



平成 25 年度



目次	ページ
はじめに	1
1. 今年度の協議会の取組みについて	4
2. 連絡会議について	
第1回 「難病の方の生活を考える」	10
第2回 「発達障害の暮らしと支援を考える」	12
第3回 「こんなふうにしたい わたしの区」 ～各区地域自立支援協議会の特色ある取組みを知ろう～	14
第4回 「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」 ～川崎市の現状と取組みを知ろう～	16
3. 専門部会	
こども部会	21
相談支援部会	24
4. ワーキンググループ	
広報	31
課題整理	35
連絡会議	42
5. 各区の活動報告	
川崎区	47
幸区	55
中原区	62
高津区	69
宮前区	75
多摩区	81
麻生区	88
6. 次年度に向けて	95
編集後記	96



## はじめに

～新たな時代、新たな相談支援体制のもとでの協議会の充実に向けて～

赤塚光子

(川崎市地域自立支援協議会 会長)

川崎市地域自立支援協議会の、平成25年度の活動報告書をお届けします。

川崎市では平成25年4月、再編された新たな体制のもとで相談支援事業が開始されました。これに伴って、自立支援協議会事務局の体制も新しくなりました。事務局が官民共同型であることは変わりませんが、民間の代表は、7つの区の基幹相談支援センター主任相談支援専門員が担うことになりました。また今年度は、昨年度末にまとめた「川崎市地域自立支援協議会運営の手引き（確認事項）」に則って運営し、さらに充実した協議会を目指した1年でもありました。

自立支援協議会は、平成25年4月に施行された障害者総合支援法において次のように規定されました。

まず、自立支援協議会の設置についてです。（「協議会」と名称されています。）

第89条の3 地方公共団体は、単独で又は共同して、障害者等への支援の体制の整備を図るため、関係機関、関係団体並びに障害者等及びその家族並びに障害者等の福祉、医療、教育又は雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者（次項において「関係機関等」という。）により構成される協議会を置くように努めなければならない。

2 前項の協議会は、関係機関等が相互の連絡を図ることにより、地域における障害者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うものとする。

さらに、市町村障害福祉計画策定における協議会の役割に関する条項があります。

第88条第7項 市町村は市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとするときは、あらかじめ住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

第8項 市町村は、第89条の3第1項に規定する協議会を設置したときは、市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとする場合において、あらかじめ、協議会の意見を聴くよう努めなければならない。

法に示された、自立支援協議会の意義や役割を、よく認識する必要があります。

また、ここ数年にわたり、法律の改正や制定が続き、障害のとらえ方、障害のある方たちの支援の基本などが大きく変わりました。

平成23年に改正された障害者基本法では、法の目的を「全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する」こととしています。

そして障害者総合支援法の基本理念には、この目的の実現のために「全ての障害者及び障害児が可能な限りその身近な場所において必要な日常生活又は社会生活を営むための支援を受けられることにより社会参加の機会が確保されること及びどこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと並びに障害者及び障害児にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものの除去に資することを旨として、総合的かつ計画的に行わなければならない。」ことが明記されています。

あえて、ここに法律の文面を記しました。これらの法改正は、国連・障害者権利条約の批准に必要とされる国内法の整備を行う障害者制度改革の取り組みから誕生したものであるからです。障害者差別解消法も制定され、わが国は平成26年1月、障害者権利条約を批准しました。障害者権利条約について述べる余裕はありませんが、障害者権利条約批准の趣旨は、改正障害者基本法の目的規定や障害者総合支援法の基本理念を見れば明らかです。新たな時代が、始まろうとしているのです。

しかし、この目的や基本理念の実体化は、そうそう容易なことではないでしょう。ですが、目指す方向や着地点などの共有化は進んでいます。一つひとつの課題をしっかりと見据えて実体のあるものにしていくこと、協議会の役割はここにあるともいえるでしょう。

川崎市地域自立支援協議会のこの1年間は、こうした意識のもとでの取り組みでもありました。それは、専門部会としての検討であったり、連絡会議の開催であったり、ワーキングの活動であったりしました。

それらは、7つの区の地域自立支援協議会の活動があっただけでなされてきたことです。これらの取り組みの経過や、内容などを報告書に記載しましたのでお読みになってください。ホームページには、より詳細を載せてありますので、こちらもお覧いただければと思います。

毎月1回開催してきた事務局会議では、事務局員全員で、具体的な進め方を話し合い、決定し、形にしてきました。また、それらの振り返りを大事にしてきました。このような1年を経過して、新しい相談支援体制のもとでの新たな事務局による運営が軌道にのってきました。同時に課題も多々見つかりましたので、それらは来年度に向けての課題として整理したところです。

さて、第4次かわさきノーマライゼーションプラン（第4次障害者計画、第4期障害福祉計画）策定が始まっています。平成18年度に設置された協議会ですが、これまでに支援に係る個別の課題であり地域の課題であるとして整理してきたことを、さらに深め、意見具申をしていくことにしています。これも、来年度の大きな仕事であると考えています。

川崎市地域自立支援協議会は、事務局をエンジンとして皆でつくっていく協議会です。さらに多くの方々の声が反映されることにより、「これからの時代にふさわしい川崎市をつくる協議会」として機能できることを望んでいます。

## 今年度の協議会の取組みについて

### 1. はじめに

設置から8年を迎えた川崎市地域自立支援協議会は、毎年試行錯誤を繰り返しながら、様々な取り組みを進めてきました。今年度の市協議会は、全体を統括する全体会議、事務局の機能を担う事務局会議、施策や制度についての説明や各区の協議会の活動報告等を行う連絡会議、個々の課題をより具体的に検討する専門部会により検討・協議を行った他、新たに3つのワーキンググループを立上げ、活動をしてまいりました。

以下、全体会議、事務局会議、連絡会議について説明します。なお、専門部会、ワーキングの活動については、それぞれの報告をご確認ください。



### 2. 全体会議について

全体会議は、平成18年度の発足当初は「全体会議」という名称を用いず、市全域の課題について議論する場として運営されてきました。その後、各区の協議会の取り組みが活発となっていき、区の課題としてとりあげていたことが、市全体の課題であるということも見えてきました。そして、区と市の協議会が一体として取り組み検討する場として、平成22年度より現在の全体会議という形で運営されることになりました。

今年度は、さまざまな立場の12名の委員（別表のとおり）で構成し、それぞれの立場から多くの意見をいただきました。また、より多くの市民の方に傍聴していただけるように、各窓口に全体会議の案内を掲示し、周知に務めました。

#### 第1回 平成25年5月16日（木）

- ①障害者総合支援法について、②川崎市地域自立支援協議会要綱・要領・手引きについて、③専門部会、ワーキングについて、④各区協議会の報告について



#### 第2回 平成25年10月29日（火）

- ①障害者虐待防止法における川崎市の体制と施行後の状況について、②障害者差別解消法について、③第3次障害者基本計画について、④第3次かわさきノーマライゼーションプランの進捗状況及び次期プラン策定スケジュールについて、⑤地域リハビリテーションセンター整備基本方針及び福祉センター跡地の基本的な考え方について、⑥専門部会、ワーキングについて、⑦各区協議会の報告について

第3回 平成26年3月17日（月）

- ①障害者雇用・就労促進計画について、②障害者総合支援法の一部改正について、③第4次かわさきノーマライゼーションプランについて、④各区協議会の報告について、⑤専門部会、ワーキングについて、⑥平成26年度の協議会の体制について

全 体 会 議 委 員		敬称略
	所 属	氏 名
1	元・立教大学コミュニティ福祉学部教授	◎ 赤塚 光子
2	川崎市北部リハビリテーションセンター在宅支援室長 (相談支援部会代表)	安保 博史
3	前NPO法人川崎市精神障害者連絡会副理事長	大窪 俊雄
4	NPO 法人ウィンドウ理事長	北島 総美
5	川崎市立田島養護学校 PTA 会長	加藤 敦子
6	社会福祉法人ともかわさき 川崎市育成会手をむすぶ親の会私たちの広場委員	佐久間 寿子
7	なかはら基幹相談支援センター	○ 住舎 泰子
8	高津区役所保健福祉センター高齢・障害課障害者支援係長	西川 洋一
9	社会福祉法人青丘社ほっとライン（こども部会代表）	西巻 奈美
10	社会福祉法人育桜福祉会 しらかし園施設長	別府 政行
11	川崎市総合教育センター特別支援教育センター室長	増田 亨
12	社会福祉法人なごみ福祉会療育相談でんでん虫代表	渡邊 のり子

◎会長 ○副会長

### 3. 事務局会議について

市協議会の事務局機能は、平成23年度に運営会議として位置づけ、平成24年度は具体的な進め方についての協議を行う事務局会議と市協議会全体の活動内容と方向性を確認する運営会議の2つの組織体で運営しました。今年度は、運営会議の役割が情報共有を密にすることで一定程度達成したことから、事務局会議に集約した運営とし、協議会会長と各区協議会から代表して基幹相談支援センター職員、障害計画課、こども福祉課により月1回実施しました。

第1回 平成25年4月24日（水）

- ①協議会要綱・要領、マニュアルについて、②専門部会について、③全体会議について、④連絡会議について、⑤協議会の年間報告書について、⑥各区協議会の報告について

第2回 平成25年5月8日（水）

① 全体会議について、②専門部会の報告について、③連絡会議について、④協議会の年間報告書について、⑤各区協議会の報告について

第3回 平成25年6月26日（水）

①各区協議会の報告について、②連絡会議について、③専門部会の報告について、④ワーキングの報告について

第4回 平成25年7月24日（水）

①連絡会議について、②専門部会の報告について、③ワーキングの報告について、④各区協議会の報告について

第5回 平成25年8月28日（水）

①連絡会議について、②専門部会の報告について、③ワーキングの報告について、④各区協議会の報告について

第6回 平成25年9月19日（水）

①連絡会議について、②全体会議について、③ワーキングの報告について、④専門部会の報告について、⑤各区協議会の報告について

第7回 平成25年10月23日（水）

①連絡会議について、②全体会議について、③ワーキングの報告について、④専門部会の報告について、⑤各区協議会の報告について

第8回 平成25年11月27日（水）

①連絡会議について、②ワーキングの報告について、③専門部会の報告について、④各区協議会の報告について

第9回 平成25年12月25日（水）

①連絡会議について、②ワーキングの報告について、③専門部会の報告について、④各区協議会の報告について

第10回 平成26年1月22日（水）

①連絡会議について、②全体会議について、③協議会の年間報告書について、④第4次かわさきノーマライゼーションプランについて、⑤ワーキングの報告について、⑥専門部会の報告について、⑦各区協議会の報告について

第11回 平成26年2月26日(水)

- ①全体会議について、②第4次かわさきノーマライゼーションプランについて、  
③来年度の体制について、④ワーキングの報告について、⑤専門部会の報告について、  
⑥各区協議会の報告について

第12回 平成26年3月26日(水)

- ①第4次かわさきノーマライゼーションプランについて、②来年度の日程について、③  
ワーキングの報告について、④専門部会の報告について、⑤各区協議会の報告について

事務局会議構成メンバー

	所属	氏名	備考
1	川崎市地域自立支援協議会 会長	赤塚 光子	
2	かわさき基幹相談支援センター	阿部 千鶴子	川崎区代表
4	さいわい基幹相談支援センター	小川 尚人	幸区代表
5	なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子	中原区代表
6	たかつ基幹相談支援センター	粟野 まゆみ	高津区代表
7	みやまえ基幹相談支援センター	野原 篤	宮前区代表
8	たま基幹相談支援センター	牧田 奈保子	多摩区代表
9	あさお基幹相談支援センター	淵上 正道	麻生区代表
10	川崎市健康福祉局障害計画課計画推進係長	柳原 成行	
11	川崎市健康福祉局障害計画課計画推進係	矢部 恒平	
12	川崎市健康福祉局障害計画課自立支援係	川上 賢太	
13	川崎市市民・こども局こども福祉課障害児福祉係長	笹島 忠幸	
14	川崎市市民・こども局こども福祉課障害児福祉係	佐藤 雅美	

4. 連絡会議について

連絡会議は、多くの方に知ってもらうために公開型で開催し、施策や制度についての説明や各区協議会の活動報告を行いました。

今年度は連絡会議の企画・実施ワーキングが中心となり、全4回の会議を企画しました。  
当事者と支援者が一緒に壇上に上がった講演は、参加者からとても好評でした。

第1回 平成25年7月10日（水） 川崎市生涯学習プラザ401大会議室  
テーマ 「難病の方の生活を考える」

第2回 平成25年9月30日（月） 市役所第4庁舎2階ホール  
テーマ 「発達障害の暮らしと支援を考える」

第3回 平成25年11月29日（金） 川崎市総合福祉センター7階大会議室  
テーマ 「こんなふうになりたい わたしの区」  
～各区地域自立支援協議会の特色ある取り組みを知ろう～

第4回 平成26年2月14日（金） 市役所第4庁舎2階ホール  
テーマ 「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」  
～川崎市の現状、他地域の取り組みを知ろう～

文責：川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害計画課  
矢部 恒平

連絡会議について

## 第1回連絡会議

### 「難病の方の生活を考える」

平成25年4月より、「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」となり、これまで制度の谷間で支援の行き届きにくかった難病の方が、支援の範囲に加わることとなりました。

過去川崎市において、難病患者の生活の実情や困り感が十分に市民や支援者に伝わりきれていなかったことを鑑み、現在難病患者にどのようなニーズや法施行に対する期待があるのか、また実際の支援はどのように行われているのか、こうしたことを知らしめることを目的に、第1回連絡会議が開催されました。

市民や市内外の関係者、自立支援協議会構成員等が参加する中、赤塚光子会長からの挨拶、障害計画課推進係長柳原成行氏からの障害者差別解消法の説明を経て、最初に宮前区役所保健福祉センター所長の益子まり氏から「障害者総合支援法における難病疾患の概要」というテーマで、障害者総合支援法における制度改正の概要、難病の定義、対策、制度に関する説明が行われました。

次に、障害計画課自立支援係長小林佳子氏から、「川崎市における難病に関する取り組みについて」というテーマで、川崎市における難病対策として行ってきた、調査研究の推進、医療施設等の整備、医療費の自己負担の軽減、地域における保健医療福祉の充実・連携、QOLの向上を目指した福祉施策の推進の説明を行いました。さらに、難病患者等居宅生活支援事業、障害者の範囲の見直し、障害支援区分、川崎市難病患者等日常生活用具給付事業、相談支援の説明を行い、福祉への要望としてとして難病患者への理解、身体障害者手帳や介護保険認定に対する考慮、医療費公費負担の対象拡大、所得保障、サービスの充実、地域格差の解消、サービス利用者負担の廃止、といったことが挙げられているとの報告がされました。

最後に、かながわ難病相談・支援センター所長、神奈川県難病団体連絡協議会事務局長の杉山憲行氏、全国パーキンソン病友の会事務局長檜垣朋子氏から、当事者のお話として就労支援、家族介護の経験談、感じている課題をお話いただきました。特に、就労先で難病ゆえの困り感がなかなか理解されにくいこと、「生きている」という実感を持つためにも仕事をするのが重要であること、口から食べることへの強い思い、精神的な面や悩みに配慮してほしいこと等、当事者の目線ならではの話を聞くことが出来ました。

文責：あさお基幹相談支援センター  
 淵上 正道

# 難病の方の生活を考える

川崎市では、障害のある方が安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域自立支援協議会を中心としてさまざまな取り組みを行っています。

今年4月より、「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」になりました。この法律では制度の谷間のない支援を提供する観点から、障害者（児）の定義に新たに政令で定める難病等が追加され、難病患者等で、症状の変動などにより、身体障害者手帳の取得ができないが、一定の障害がある方々が障害福祉サービス等の対象となりました。法律が変わったことで難病の方を取り巻く課題はどうなったのか、どのようなニーズ、期待があり、実際の支援はどうなされているのかなど、行政説明だけでなく、難病が対象となった経緯、当事者の方にも語っていただき、皆さんで現状を把握できればと考えます。

日時 平成25年7月10日（水）13：30～16：30

場所 生涯学習プラザ401大会議室 ※裏面参照

定員 100名（先着順） ※裏面の申込書にてお申し込みください

参加費 無料

## 【プログラム】

13：00 受付開始

13：30 開会

13：40 障害者差別解消法について 川崎市障害計画課計画推進係長 柳原成行氏

13：55 障害者総合支援法の新たな対象となった難病について  
宮前区保健福祉センター所長 益子まり氏

14：40 川崎市における難病に関する取り組みについて  
川崎市障害計画課自立支援係長 小林佳子氏

15：20 当事者の方のお話 2名

16：30 閉会

## 【申し込み・問い合わせ先】

特定非営利活動法人 川崎市障害福祉施設事業協会

〒213-0011 川崎市高津区久本3-6-22 ちどり3F

電話044-829-6610 FAX044-829-6620

## 第2回連絡会議

### 発達障害者の暮らしと支援を考える

平成23年の障害者基本法改正により発達障害が精神障害の1つとして加えられましたが、発達障害の方の理解や支援については、福祉、教育の両分野においてまだまだ不十分などところが多く、暮らしやすさは改善されていない現状を踏まえ、このテーマをとりあげることとなりました。

講師として、厚生労働省障害福祉課発達障害対策専門官 日詰 正文氏を招き、発達障害支援施策について、発達障害の特性などをご自身の現場での経験に裏付けられた話を分かりやすく説明していただきました。

その後はインシデントプロセス法を用いた公開検証を行いました。実際に発達障害の方を支援の実例をあげていただき、参加者の中から壇上にあがり、発表者の立場ではなく、当事者の立場で考えることで様々なアイデアを出す、1人で悩みを抱えずに気軽に助言をするといった、今までの連絡会議とは一味違う、聞くだけではない、参加するといった取り組みを実施しました。

当事者の方による講演では、発達相談支援センター高木一江所長からお話しをいただいたあと、当事者の方よりご自身の体験から具体的なエピソードを交えて、生きづらさについての気持ちや思っている事を率直にお話ししていただきました。

当日は各区の協議会構成員、行政関係者以外から、学校関係、児童関係の方など、総勢128名の参加があり、発達障害の方の暮らしと支援について非常に高い関心もたれている事が分かりました。

アンケートも様々なご意見、感想をいただきました。日詰専門官が話題に触れた「感覚過敏」について、当事者の方が話された「自分が相手に理解されたければ、まず自分が相手を理解する」という言葉が印象に残った、様々な立場の方から現場での振り返り、気づきにつながった、インシデントプロセス法を取り入れていきたいという感想が多く書かれており、発達障害の方への理解をより深めることができました。

文責：さいわい基幹相談支援センター  
小川 尚人

## 発達障害者の暮らしと支援を考える

川崎市では、障害のある方が安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域自立支援協議会を中心としてさまざまな取り組みを行っています。

発達障害は、平成23年の障害者基本法改正により精神障害の一つとして障害に加えられましたが、発達障害の理解や障害のある方の支援については不十分なところも多く、暮らしやすさは改善されていないのが現状です。

そこで今回は、発達障害とは何かという基本的な定義から、障害のある方の暮らしや実際の支援についてまで、発達障害の専門家のお話や事例検討等を通じて、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

日 時 平成25年9月30日（月）13：30～16：30

場 所 川崎市役所第4庁舎 2階ホール

定 員 100名（先着順） ※裏面の申込書にてお申し込みください

参加費 無料

### 【プログラム】

13：00 受付開始

13：30 開会

13：35 講師による講義(発達障害者支援の動向、個別の生活課題の検証等)

日誌 正文氏（厚生労働省障害福祉課発達障害対策専門官）

16：10 当事者の方による講演

16：50 閉会

### 【申し込み・問い合わせ先】

特定非営利活動法人 川崎市障害福祉施設事業協会

〒213-0011 川崎市高津区久本3-6-22 ちどり3F

電話044-829-6610 FAX044-829-6620

### 第3回連絡会議

## こんなふうにしたい わたしの区

各区の地域自立支援協議会の取り組みを報告しあい、情報を共有し学びあう場を作ることとを目的として開催いたしました。

川崎市は7つの区に分かれており、それぞれの区ごとに地域自立支援協議会を立ち上げています。そして、各区の地域自立支援協議会では、地域の方々と協力しながら、障害のある方もない方も地域で暮らしやすくなるよう、地域の実情に応じたさまざまな取り組みを行っています。それぞれの区協議会が、こんなふうにしたいという思いや今年度取り組んでいる内容を、キャッチフレーズとともに次のような報告をしました。

川崎区は「ともに暮らすまちづくり～みんなにやさしい川崎区～」

川崎区は外国人の方が多く住んでいるため、外国の方でも制度を利用しやすいように、制度案内パンフレットを8か国語で作成して配布しました。

幸区は「相談しやすい街づくりに向けて！」

当事者の方が発表する場を設けたり、養護学校に出向いて協議会や相談支援センターの紹介をする等の連携を重視しています。

中原区は「ボトムアップ・なかはらっく・中原！！」

医療的ケアや児童の支援に対する検討を行いました。

また、協議会のゆるキャラ「なかはらっく」を作成しました。

高津区は「高津区三本の矢作戦～5年でこんな街にしたい！！～」

5年計画の3年目である今年は、暮らしやすい街づくりを目指し、地域の方の居場所作り等に取り組みました。

宮前区は「宮前区の暮らし～こどもの暮らしやすさを一緒に考えていこう～」

児童委員会では教育と福祉の連携、保護者向けの情報提供等に取り組みました。

多摩区は「暮らしやすい街づくりに向けて～きらっと光る多摩～」

当事者同士の交流会や、ヘルパー事業所との意見交換会の実施等を行いました。

麻生区は「みんなが参加する地域づくり！～障害のある人もない人も～」

ピアサポート支援について、グループディスカッションや活動を支える仕組み作りを行いました。

連絡会議終了後、参加者の皆様より「他の区の報告は大変刺激になった。」「自分の区でも生かせそうだ。」「共同で取り組んでいけると良いのではないか。」などのご意見をたくさんいただきました。各区にとって次につながる手応えを得られる時間となりました。

文責：たかつ基幹相談支援センター  
栗野 まゆみ

# こんなふうにしたい わたしの区

～各区地域自立支援協議会の特色ある取り組みを知ろう～

川崎市では、障害のある方が安心して暮らせる地域づくりを目指して、地域自立支援協議会を中心としてさまざまな取り組みを行っています。

平成18年に川崎市地域自立支援協議会が発足してから7年が経過しました。市内の各区地域自立支援協議会においても様々な試行錯誤を経て、現在は発足当初に比べて意欲的な活動も多くみられるようになってきています。

そこで、第3回川崎市地域自立支援協議会連絡会議では、現在取り組んでいる活動を各区から発表し、特色や成果、自分の区の「良いところ」を伝えあい、他の区の良いところを参考にし、今後の各区地域自立支援協議会の運営に生かせる場にしていきたいと考えています。

日時 平成25年11月29日（金）13:30～16:30

場所 川崎市総合福祉センター（エポックなかはら） 7階大会議室

定員 150名（先着順） ※裏面の申込書にてお申し込みください

参加費 無料

## 【プログラム】

13:00 受付開始

13:30 開会

13:35 各区の取り組み報告

川崎区「ともに暮らすまちづくり～みんなにやさしい川崎区～」

幸区「相談しやすい街づくりに向けて！」

中原区「ボトムアップ・なかはらっく・中原！！」

高津区「高津区三本の矢作戦～5年でこんな街にしたい！！～」

宮前区「宮前区の暮らし～こどもの暮らしやすさを一緒に考えていこう～」

多摩区「暮らしやすい街づくりに向けて～きらっと光る多摩～」

麻生区「みんなが参加する地域づくり！～障害のある人もない人も～」

16:30 閉会

（途中休憩あり）

## 【申し込み・問い合わせ先】

特定非営利活動法人 川崎市障害福祉施設事業協会

〒213-0011 川崎市高津区久本3-6-22 ちどり3F

電話044-829-6610 FAX044-829-6620

#### 第4回連絡会議

### 医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには ～川崎市の現状、他地域の取り組みを知ろう～

医療的ケアの必要な方に対する社会資源や支援の体制、家族の負担などの課題が依然として大きい、という現状に対してしっかりと向き合い、考えていく必要があることから、連絡会議で取り上げることにしました。

長く医療的ケアに取り組んでおられ、NPO法人地域ケアさぼーと研究所理事を務められている下川和洋先生にご講演をいただきました。

下川先生の講演は、「身体のしくみはどうなっているのか。」という問いかけから始まり、医療的ケアとはどのようなものをわかりやすく話していただきました。また、医療行為と医療的ケアの違いや法的根拠、内容の変更などについてのお話もありました。さらには、医療的ケアの必要な方の状況や支援の様子などについての映像を見せていただきました。

わかりやすい解説と映像により、今まで医療的ケアについてよく知らなかった方も身近なものに感じ、地域の中での支援の広がりなどについて理解を深めることができたのではないかと思います。

次に、川崎市の取り組みについて、かわさき基幹相談支援センター長の阿部千鶴子氏と健康福祉局障害計画課自立支援係長小林佳子氏から、川崎市における医療的ケアの必要な方への対応と、主なサービスについての紹介がありました。川崎市には現在において、経鼻経管栄養・胃ろう・気管切開管理などの医療的ケアを実施している日中活動施設が複数あることがわかりました。

その後、実際に医療的ケアを受けている方のご家族と支援者である相談支援専門員からのお話がありました。ご家族の山崎優江氏からは、お子さんがどのように成長し、成長の過程でどのような困難さが生じ、それをどのように克服していったのか、その中で見えてきた課題、家族としての思い、支援者に対する希望などについてじっくりと話していただきました。

小松江美相談支援専門員（地域相談支援センターそれいゆ）からは、支援の内容や経過、今後の課題などを報告していただきました。小松相談支援専門員の話の中に、「医療的ケアが必要な方の支援は医療的な部分だけの支援ではない、医療的ケアは生活の一部であり、その方の生活をトータル的に支援していくことが必要である。」というお話があり、支援の基本として押さえておくことが必要となります。

また、医療的ケアの必要な障害者が抱える問題点として、山崎さんが挙げられていた、学校以外に看護師のいる場所が少ないことや、学校卒業後の受け入れ可能な施設が少ないこと、徐々に進んできた自立支援の動きが不慮の事故等によって後退してしまう恐れがあることについて、支援者としてどうすれば解決できるのか、考えていく必要があると思いました。さまざまな角度から医療的ケアの必要な方の支援についてお話をいただき、大変中身の濃い時間を過ごすことができました。

文責：たかつ基幹相談支援センター  
栗野 まゆみ

## 平成25年度 第4回 川崎市地域自立支援協議会連絡会議

# 「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」 ～川崎市の現状、他地域の取り組みを知ろう～

川崎市地域自立支援協議会では、障害のある方が安心して暮らせる地域づくりを目指して、さまざまな取り組みを行っています。

医療技術や機器の進歩があり、日常的に医療的ケアが必要な方たちも、ご自宅で暮らすことができるようになってきました。けれどその一方、地域で安心して暮らしていくための社会資源や支援の体制は充分とはいえず、家族への負担が依然として問題となっています。

住み慣れた地域で暮らすために、医療的ケアが必要な方やその家族の生活の現状や課題は何か、実際の支援はどのようなされているのか。他市で取り組まれている活動、当事者の方からの話も交え、皆さんで現状を把握できればと考えます。

日時 平成26年 2月14日（金）10:00～13:00

場所 川崎市役所第4庁舎 2階ホール ※裏面参照

定員 150名（先着順） ※裏面の申込書にてお申し込みください

参加費 無料

### 【プログラム】

- 9:30 受付開始
- 10:00 開会
- 10:10 医療的ケアとは？  
医療的ケアが必要な方に関する取り組み、ライフステージにおける課題  
NPO 法人地域ケアさぽーと研究所 下川和洋氏
- 11:40 川崎市における医療的ケアの現状
- 12:00 当事者、家族、支援者による話
- 12:50 質疑応答
- 13:00 閉会

#### ※下川和洋氏プロフィール

東京学芸大学初等教育教員養成課程卒業後、都立養護学校に勤務され、在職中より医療的ケアについての課題に積極的に取り組まれる。全国各地の学習会や研修会に講師として赴き、現在はNPO法人地域ケアさぽーと研究所理事として活躍されている。

#### 【申し込み・問い合わせ先】

特定非営利活動法人 川崎市障害福祉施設事業協会

〒213-0011 川崎市高津区久本3-6-22 ちどり3F

電話044-829-6610 FAX044-829-6620

## 専門部会について



## こども部会

### 1 平成24年度からの経緯

こども部会は、障害のある子ども（気になる段階を含む）の発達の促進及び自立と社会参加の支援を目的として、平成24年度に設置し、活動を開始しました。「相談がどこへ行っても進まないで途切れてしまう。」「どこに相談すればいいのか分からない。」といった声を地域の課題として捉え、相談体制に関する課題を中心に整理し、障害のある方、子育てをしている最中の方、事業所及び行政を含めて、全市的に課題の抽出や検討を行いました。

さらに平成24年度全体会議で年度を超えた取り組みが承認されたことを受けて、平成25年度も平成24年度とほぼ同一の構成員で継続的な議論を行うこととなりました。

### 2 こども部会活動内容

平成25年6月から平成26年2月まで

- 【第1回】6月25日（火） 自己紹介、地域自立支援協議会について及び課題確認
- 【第2回】7月18日（木） 平成24年度課題再整理
- 【第3回】9月5日（木） 平成24年度課題再整理及び平成25年度方向性確定
- 【第4回】10月9日（水） 既存の広報物について議論及び作業グループ設置
- 【第5回】11月6日（水） 広報物作成及び討議
- 【第6回】1月15日（水） 広報物修正及び討議
- 【第7回】2月19日（水） 広報物修正及び討議並びに平成25年度の取組総括  
(他、10月30日（水）及び1月8日（水）に、少人数の作業グループで広報物作成の活動に取り組みました。)

平成25年度は、課題整理の契機となっている「どこに相談すればいいのか分からない。」という相談する人達からの声を受けて、「今ある資源をいかに広報するか」を検討しました。検討に先立って広報の現状について議論したところ、次のとおりまとめました。

- ・数としては多く発行されている。区の児童委員会においても新たな広報物の作成に取り組んでいるところがあり、不足しているわけではない。
- ・手に渡るタイミングや入手できる場所には課題がある。特に、途中で課題が発生した人が求める情報を手にするまでに、困難が生じる傾向がある。
- ・相談員や学校の教員が広報物を理解していない、又は存在も把握していないことがあるため、案内や紹介等で適切に使いこなせていない。

ここから、次の2点をポイントとしてまとめました。

- 1 どのようにしたら必要な人のところに情報が届くか
- 2 相談業務を行う各機関の職員の人材育成及び適切な人員配置

上記ポイントを踏まえて各委員が広報物を持ち寄って議論したところ、さらなる課題や要望等が浮かび上がってきました。

- ・「障害」に特化した広報物が欲しい。「障害」に関する相談に結び付かない、他の情報に紛れ込んでしまって分かりづらい。⇔「障害」の表記があると置けない場所がある。「うちには関係ない」と、通り過ぎてしまう人も出てきてしまう。
- ・区役所まで行かなくても、もっと身近な場所で手に入れたい。
- ・病院に行くことが多い、医療機関との連携は有効。
- ・特別支援コーディネーターや特別支援学級担任も網羅すべき。
- ・普段は障害の事業に携わっていない人でも案内ができるような一覧があるといい。

また、第2回川崎市地域自立支援協議会全体会議でも、「障害児に関する案内が少ない。」「障害者が読んで分かるように、振り仮名が振ってあったり、イラストがたくさん盛り込まれていたりするようなものがいい。」といった意見が挙がりました。こうした声を踏まえて全市の相談支援の体系を整理し、「どこに相談すればいいのか」を可視化して、こども部会の広報物として作成しました。

作成に当たっては、健康診断や相談等を行っている方に作業グループに参加してもらったり、各委員の所属先の利用者や職員等からコメントをもらったりして、A4横を二つ折りにして収納できるレイアウトにまとめ、こども部会委員が描いた優しい色彩のイラストで全体を飾りました。また、討議の段階では、当該広報物を「各家庭が相談をするための1歩目」にしてもらいたいという思いのもと、保存版であることを強調した上で、「全てルビをふること」「各区版にまとめ、情報を簡潔にすること」「子どもの障害が分かっている人にもそうでない人にも見てもらえること」を大切にして修正を繰り返しました。今後は、川崎市に提案した上で、各関係機関と調整して確定版を発行すること、及び区役所の健康診断を始め、身近な場所や医療機関等に配布を依頼して、継続的に活用状況を追跡することが必要という見解が出ております。

文責：川崎市市民・こども局こども本部こども支援部こども福祉課  
佐藤雅美

### こども部会 構成員

	所 属	氏 名
1	ひばりの会	○相澤 寿美子
2	川崎市発達相談支援センター	阿佐野 智昭
3	市立田島養護学校保護者会	大澤 清美
4	県立中原養護学校指導推進グループ	岡安 玲
5	川崎区こども支援室	荻原 恭子
6	地域相談支援センターそれいゆ（麻生区児童委員会）	小松 江美
7	川崎市民	小峰 慶也
8	田園調布学園大学	◎鈴木 文治
9	川崎市中央療育センター	地村 明子
10	こども本部こども家庭センター専門支援係	塚崎 みゆき
11	ほっとライン	西巻 奈美
12	川崎市自閉症協会	花澤 恭子
13	総合教育センター塚越相談室	宮川 淳子
14	主任児童委員	吉垣 君子
15	療育相談でんでん虫（宮前区児童委員会）	渡邊 のり子
	（事務局）たま基幹相談支援センター	牧田 奈保子
	（事務局）あさお基幹相談支援センター	淵上 正道
	（事務局）川崎市健康福祉局障害計画課	寒河江 恵理
	（事務局）川崎市市民・こども局こども福祉課障害児福祉係	笹島 忠幸
	（事務局）川崎市市民・こども局こども福祉課障害児福祉係	佐藤 雅美

◎会長 ○副会長

## 相談支援部会

### 1 経過

相談支援部会は平成24年度に設置され、平成25年度に相談支援事業再編整備を予定していることを受けて、主に「相談支援従事者研修の企画・実施」「（仮称）相談支援ガイドブックの作成」に取り組みました。平成24年度のまとめとして、相談支援従事者の養成・確保や相談支援ガイドブック見直し等については継続的に行う必要があるため、相談支援部会は当時のメンバーを考慮しつつ、常設の設置としたい旨の意見が出ていました。

以上を踏まえ、平成25年度は平成24年度の取り組みの継続性に配慮するため、一部構成員を除き、平成24年度の構成員が引き続き実施しました。

### 2 相談支援部会活動内容

平成24年度の取り組みを継続し、「相談支援従事者研修の企画・実施」と「（仮称）相談支援ガイドブックの作成」に取り組みました。

【第1回】	6月14日（金）	取組課題の確認
【第2回】	7月12日（木）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第3回】	8月 2日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第4回】	9月13日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第5回】	10月17日（木）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第6回】	11月15日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第7回】	12月13日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第8回】	1月10日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第9回】	2月 7日（金）	グループ別検討（ガイドブック、研修）
【第10回】	3月14日（金）	年間まとめ
【その他】	1月22日（水）	ガイドブックグループ編集会議
	2月25日（火）	ガイドブックグループ編集会議

#### （1）相談支援従事者研修

主に相談支援専門員のスキルアップを目指した川崎市独自の研修である「実務研修1、2、3」の企画・検討を行い、法定研修である「相談支援従事者初任者研修、現任研修」についても随時検討を行いました。各研修については、以下のとおりです。

##### ・実務研修1

6月27日、7月3日・4日の計3日間実施し、30名が修了しました。当事者による講師の確保等が課題です。

☆実務研修1の概要

【目的】障害児・者の相談支援を行う上で基本となる知識やスキル等を習得することにより、サービス等利用計画や障害児支援利用計画等を作成できるようになること。

【内容】障害保健福祉制度、障害特性の理解（身体・知的・精神・発達・高次脳・障害児）、相談支援の展開技法Ⅰ～Ⅳ（演習）

・初任者研修

7月29日～10月11日にかけて計6日間実施し、121名が修了しました。今年度初めて演習日程を分けて実施しました。演習ファシリテーターの確保・養成等が課題です。

・実務研修2

11月25日、12月6日・20日の計3日間実施し、17名が修了しました。講義では、「専門機関の活用」の科目で、次回以降に実際の活用事例の紹介を行う必要性について、演習では、事例と地域資源の開発との関連性が課題として挙げられました。演習については、共通事例を使用して地域資源開発へつなげる一連の流れを組み込めれば更に受講生の理解が進みやすいのではないかとの意見が出ました。

☆実務研修2の概要

【目的】地域のネットワークや自立支援協議会、専門機関などを活用し、多様な生活課題を抱えている方への支援を行えるようになることと、地域における資源開発の視点を獲得すること。

【内容】チームアプローチとコミュニティソーシャルワークの視点、専門機関の機能と活用（更生相談所、精神保健福祉センター、北部リハビリテーションセンター）、相談支援の実践（演習）、地域の社会資源の開発（演習）

・現任研修

11月26日、12月10日・11日の計3日間実施し、56名が修了しました。こちらも演習ファシリテーターの養成・確保が課題となっており、平成26年度を見越して主任相談支援専門員2名がファシリテーター補助として参加しました。また、受講生間の知識・経験等の差が課題として挙げられました。

・実務研修3

平成26年2月6日・21日に実施し、16名が修了しました。相談支援部会構成員が、ファシリテーター研修としての目的も兼ねてファシリテーター補助として参加しました。受講者アンケートでは概ね理解度は高かったものの、講義と演習の関連性や講義に関する課題に関して意見が出ており、実務研修3全体として更なる検討が必要です。

#### ☆実務研修3の概要

【目的】指導者として必要な技術を学び、他の相談支援専門員に対する助言・指導、地域づくりなどを行えるようになること。

【内容】自立支援協議会の展開と活用、ソーシャルアクションの視点、スーパービジョン（演習）

#### (2) ガイドブック

相談支援部会では、川崎市の相談支援の質の向上を目標として、川崎市におけるこれまでの相談支援の実践や、相談支援を進めていく上で踏まえておきたい点などを記した「川崎市相談支援ガイドブック」の作成に、平成24年度部会設立時から取り組みました。ガイドブックの役割としては、相談支援に初めて従事する人が、相談支援の基本を押さえながら支援のイメージを膨らませることや、経験年数を重ねた相談員が、支援の現場で迷いが生じたときに立ち返ること等を期待しております。ガイドブック作成に当たっては、読む人が具体的な支援のイメージを持ちやすくするため、多岐にわたる障害種別の実践例をそれぞれの相談員から紹介してもらったり、専門機関について、各機関に所属する職員から解説してもらったりしました。さらに、支援を受けた本人はどう変わり、どう感じたのかという生の声や、設立当初から川崎市の相談支援の歴史と共に現在まで支援を続けてきた相談員の歩み、及び現役で相談支援に従事している相談員の想いを随所に盛り込み、参考書一辺倒でない、川崎市として大切にしてきたこと、これからも大切にしたいことを盛り込んだガイドブックにしました。当ガイドブックは、現時点での「川崎市における相談支援の到達点」ともいえるものです。今後は、相談支援の充実を目指し、具体的な支援と連動させた内容の精査などを行い、より質の高いガイドブックとしていくことが求められています。

今後は、当ガイドブックを各関係機関に広く配布して、一人でも多くの相談支援従事者等の手に渡るようにすること、及び継続的に内容を見直し、相談支援の研修にテキストとして使用できるように更新していくことが必要となっていくと考えます。

### 3 今後

相談支援従事者研修については、法定研修と市独自研修である実務研修を含め、体系立てた一連の研修を実施できました。今後につきましては、今回実施した研修内容の更なる検討を行い、より良い研修にしていくことが必要です。

ガイドブックについては、各相談支援従事者が本格的に使用を開始するのは、平成26年度となるため、実際に使用しながら、明らかになった課題を踏まえて適宜見直しを図りつつ、更なる内容の充実に向けた取り組みが必要です。

文責：川崎市市民・こども局こども本部こども支援部こども福祉課  
佐藤 雅美  
川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害計画課  
川上 賢太

### 相談支援部会 構成員

	所 属	氏 名	
1	川崎市地域自立支援協議会会長	赤塚 光子	ガ
2	川崎市北部リハビリテーションセンター在宅支援室長	○安保 博史	研
3	川崎市精神保健福祉センター診療・相談係 (こころの相談所)	大山 樹	ガ
4	南部地域療育センター開設準備室長	小島 久美子	研
5	田園調布学園大学人間福祉学部講師	◎富永 健太郎	ガ
6	地域相談支援センターポポラス	船井 幸子	ガ
7	川崎市こども家庭センター北部児童相談所相談支援係長	古川 恵	ガ
8	しらかし園 施設長	別府 政行	研
9	高津区役所高齢・障害課障害者支援係	山崎 芽依子	研
	(事務局)かわさき基幹相談支援センター	熊谷 真理	ガ
	(事務局)さいわい基幹相談支援センター	小川 尚人	研
	(事務局)なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子	ガ
	(事務局)川崎市市民・こども局こども福祉課 障害児福祉係	佐藤 雅美	ガ
	(事務局)川崎市健康福祉局障害計画課 自立支援係	小林 佳子	研
	(事務局)川崎市健康福祉局障害計画課 自立支援係	川上 賢太	ガ・研

◎会長 ○副会長

研＝相談支援従事者研修の企画・実施グループ

ガ＝(仮称)相談支援ガイドブックの作成グループ



ワーキンググループ



## 広報ワーキング

### <目的>

- 1 川崎市地域自立支援協議会のパンフレットを作成し、福祉関係者のみならず広く市民に配布し啓発する。
- 2 これまで各区に一任していた広報について各区の広報担当者が集まる機会を設け、広報の状況を報告し合い情報共有することで、今後の広報のあり方の参考とし、次年度以降の方向性を検討する。
- 3 広報物の配布先について検討する。

### <年間活動報告>

第1回 平成25年7月19日（金）9時30分～11時

場所：川崎市役所第3庁舎 3階 会議室

- ・自己紹介
- ・各区の広報物作成状況について
- ・今年度ワーキンググループとしての取り組みについて
- ・自立支援協議会としての広報内容について
- ・広報するための媒体、配布先について

第2回 平成25年9月20日（金）9時30分～11時

場所：ちどり 1階 会議室

- ・各区の広報物作成状況及び協議会広報作成の意義について
- ・市協議会パンフレットの具体的な作成方法について
- ・広報紙の印刷方法について

第3回 平成25年10月18日（金）9時30分～11時

場所：ちどり 1階 会議室

- ・市協議会パンフレットの内容、紙面のサイズについて検討を行い役割分担する。  
文字で埋めるのではなく、図式や絵など視覚的に判りやすいものにする。  
表面「協議会の目的」、中面「協議会の活動、役割等」、裏面「問い合わせ先」。
- ・役割分担（次回11月の会議までに文言、レイアウト等の案を考えてくる）  
表裏面・・・宮前区、多摩区、麻生区  
中 面・・・川崎区、幸区、中原区、高津区

第4回 平成25年11月15日（金）9時30分～11時

場所：ちどり 3階 会議室

- ・パンフレットの内容、レイアウトについて  
表裏面、中面についての素案を検討。  
文言やレイアウトの検討結果を後日担当が調整して作成する。
- ・各区の広報の作成状況について確認。

第5回 平成25年12月20日（金）9時30分～11時

場所：ちどり 3階 会議室

- ・パンフレットの内容、レイアウトについて  
11月の事務局会議の意見を受けて再検討し次回のワーキングまでに修正する。
- ・ホームページの枠組みについて確認  
掲載事項としては、会議録、パンフレット等広報物、イベント等の実績活動（写真添付あり）が考えられる。具体的には各区の裁量とする。
- ・ホームページの立ち上げ状況確認。
- ・各区のマスコット（ゆるキャラ）について  
中原区 麻生区 にあり。

第6回 平成26年 1月17日（金）9時30分～11時

場所：ちどり 3階 会議室

- ・パンフレットの内容、レイアウトについて  
修正版について更なる検討を行う
- ・配布先の検討
- ・今後のスケジュール確認

第7回 平成26年 2月14日（金）14時00分～16時

場所：川崎市役所第3庁舎 3階会議室

- ・パンフレットの内容、レイアウトについて  
ワーキング内での最終確認をおこない、2月事務局会議にて最終確認。
- ・印刷について
- ・ホームページの管理、運営について

<パンフレットの印刷について>

- ・印刷業者に依頼し3月中に10000部を印刷完了。  
配布は次年度。

#### <パンフレットの配布先について>

区役所、相談支援事業所 市内養護学校 鶴見養護学校 支援級のある公立小中学校  
児童相談所 更生相談所 精神保健福祉センター 就労援助センター  
障害者施設協会加盟事業所 地域包括支援センター等

児童家庭課等区役所内他部署、各区協議会配布については区役所分として配布。  
病院、クリニック、居宅支援事業所、タイムケア、放課後児童デイ等への配布分については各区協議会にて必要に応じ配布。  
障害者施設協会未加入施設については、連絡会議、研修会などで1年を通じ配布し網羅する。

#### <各区の広報紙について>

- ・川崎区：なし
- ・幸 区：区協議会パンフレット「わいわいさいわい」作成
- ・中原区：なし
- ・高津区：区協議会パンフレット作成
- ・宮前区：広報誌「ほっととらいあんぐる」を発行し地域に配布した。問い合わせが多く、反響があった。
- ・多摩区：広報紙「たまネット」及び区協議会パンフレット作成。
- ・麻生区：区協議会パンフレット作成。

#### <各区ホームページの立ち上げ状況（2月末現在）>

- ・川崎区：会議録とは別に会議概要を作成し掲載。現在、5月分までアップ。  
全体会議と各委員会（3つ）の会議概要掲載。  
毎月の更新を目指しているがなかなか難しい現状
- ・幸 区：昨年度に立ち上げたが、今年度は更新していない。
- ・中原区：何も動いていない。
- ・宮前区：次年度は協議会そのものを当事者主体の場にしたいと考えている。その為、HPの運用についても同じように考えているが現実的には難しい状況。
- ・多摩区：今年度中にたまネットなどの広報誌中心に掲載する予定。
- ・麻生区：昨年度に立ち上げたが、今年度は更新していない。

#### <次年度について>

- 1 各区の広報担当が集まり各区の広報に関する状況を情報共有する場として継続します。
- 2 作成したパンフレットについて配布はしていきますが、協議会の存在が伝わっているかの検証ができると尚良いと考えています。

<構成メンバー>

	所 属	氏 名
事務局	たま基幹相談支援センター	牧田 奈保子
	みやまえ基幹相談支援センター	野原 篤
	川崎市障害計画課	矢部 恒平
川崎区	大師地区健康福祉ステーション	鈴木 孝之
幸区	地域相談支援センター あんさんぶる	勝呂 ちひろ
中原区	地域相談支援センター すまいる	猪野田 丈裕
高津区	地域相談支援センター ゆきやなぎ	河村 裕孝
宮前区	川崎市精神障害者連絡会	大窪 俊夫
多摩区	地域相談支援センター ドルチェ	加藤 主力
麻生区	地域相談支援センター 柿生	碓井 友紀

文責 たま基幹相談支援センター  
牧田 奈保子

## 課題整理ワーキング

1、目的：各区において相談支援を実施していくなかで課題となったことを、課題整理ワーキングで共有し、全市で共有して検討すべき課題について整理する。

2、構成メンバー：事務局2名、各区からの代表8名の合計10名

川崎区	地域相談支援センターいっしょ	加藤 祥子
幸区	地域相談支援センターりぼん	小林 しのぶ
中原区	もとすみ地域相談支援センター	只野 美緒
高津区	たかつ基幹相談支援センター	荒井 恒夫
宮前区	地域相談支援センターれもん	西坂 恵里
多摩区	たま基幹相談支援センター	藍澤 温代
多摩区	地域相談支援センターいろはにこんぺいとう	尾崎 雄久
麻生区	あさお基幹相談支援センター	田島 美幸
事務局	かわさき基幹相談支援センター	小田川 容子
	なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子

3、ワーキング開催日：平成25年6月7日、7月8日、9月2日、10月21日  
12月5日、平成26年2月10日（1回2~3時間）

### 4、協議の内容

#### 第1回（平成25年6月7日）

- ・各区でこれまで出された課題の報告、課題整理表の利用状況についての確認
- ※課題提出表の報告の順序が「提出者」→「区協議会」→「市協議会」となっていることによって、提出者の提出しにくさも考えられるため、提出者の提出方法は決めずに、各区の課題をワーキンググループ会議に書面で提出することにして、フォーマットの順序を「区協議会」→「ワーキンググループ」→「市協議会」とした。

#### 第2回（平成25年7月8日）

① 平成23年、24年度の実施した各区のアンケートの報告

川崎区	入浴サービスの実態について
幸区	民生委員の役割を理解するための実態調査 ナイトケアの必要性についての調査

中原区	区内学校、福祉施設へ「誰もが暮らしやすいまちづくりのための調査」 「生活介護事業所への看護師業務及び医療的ケアに関するアンケート」
高津区	ヘルパー事業所へ「ヘルパーを利用するにあたっての課題」
宮前区	グループホームの実態調査
多摩区	日中活動先の必要性について
麻生区	グループホーム、ケアホーム世話人、管理者、入居者へ「生活等に関わる実態調査」

② 医療的ケアの必要な方の送迎状況について

- ・送迎車内での痰の吸引を行わないことが条件になっているところが多く、ほとんどが家族の送迎対応になっていることで、親の負担が大きい。
- ・医療的ケアに限らず、送迎については課題がある。
- ・送迎バスのポイントまでの移動が困難な状況がある。

③ 今年度、各区で取り上げることとした課題

川崎区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の支援の課題（外国籍の家族への情報の伝達）</li> <li>・日中活動に参加していない方の生活状況について</li> <li>・サービス管理責任者との連携について</li> <li>・災害対策</li> </ul>
幸 区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人期のナイトケアの必要性について</li> <li>・民生委員との連携の在り方について</li> </ul>
中原区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの設置の困難さについて</li> <li>・災害時のネットワークについて</li> <li>・児童の相談支援体制について</li> </ul>
高津区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス管理責任者との連携について</li> <li>・地域包括支援センターとの連携について</li> <li>・精神障害の方の地域移行にともなう医療機関との連携について</li> </ul>
宮前区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護学校、サポート校との連携について</li> <li>・民生委員や他機関との連携について</li> </ul>
多摩区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、学齢期の相談支援体制について</li> <li>・成人期のナイトケアについて</li> <li>・発達障害、ひきこもりの方の居場所づくりについて</li> <li>・通所通学支援の利用しづらさについて</li> <li>・ショートステイの不足</li> <li>・就労移行支援事業所との連携について</li> <li>・サービス管理責任者との連携について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の高齢化について</li> <li>・ グループホームの不足</li> <li>・ 相談支援センターの認知度の低さ</li> <li>・ 自立支援協議会の認知度の低さ</li> </ul>
麻生区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あんしんセンターの利用のしづらさ</li> <li>・ 児童の相談支援体制について</li> </ul>

④ 今年度、市自立支援協議会で検討してほしい課題

- ・ 児童の相談支援窓口の明確化
- ・ 日中活動先との連携（就労移行支援事業所のアセスメント不足）
- ・ 成人期のナイトケアの必要性
- ・ 送迎について

（医療的ケアの必要な方の送迎について、通所通学支援の利用のしづらさ）

第3回（平成25年9月2日）

① 各区からの課題について

川崎区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢をテーマに話し合いを実施</li> <li>・ 外国籍の家族への情報提供について</li> </ul>
幸 区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動支援、通所通学支援の不足</li> <li>・ 障害者の高齢化</li> <li>・ 児童の相談支援体制について</li> </ul>
中原区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院からの地域移行支援について</li> <li>・ 学齢期の通学のサポートについて</li> </ul>
高津区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童における区役所内の相談窓口について</li> </ul>
宮前区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の相談支援体制について</li> </ul>
多摩区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度等の情報の伝達のあり方について</li> </ul>
麻生区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子で障害のある家族のサポートについて</li> </ul>

② 検討してほしい課題

○ 児童の相談支援体制について

- ・ 児童の相談窓口の役割の明確化が必要。
- ・ 対象年齢、サービス内容などが分かりにくい。

⇒市事務局会議で、相談支援センターにどのような相談があって、どういうことで困っているのかを明らかにするようにとのこと。

○ 日中活動先（就労移行支援事業所、A型）について

- ・ サービス調整会議に提出される書類では、アセスメント不足が伺えるため、

就労系サービスにおける川崎独自のサービス提出票での書式のルール化が必要ではないか。

⇒ 市事務局会議にて、障害計画課より、サービス提出票の全般的な見直しを検討しているとの報告があった。

## 第4回（平成25年10月21日）

### （1）児童の相談支援体制について

（実際例）

- ① 発達障害の疑いのあるお子さんのことについて、親が療育センター、区役所、事業所などいろいろなところに問い合わせている現状で、どこに相談をしたらいいかわからないという話が出ている。
- ② 相談支援事業所には、アスペルガーの子ども（引きこもりがち）で、学校卒業後の過ごし方について相談がある。親の不安が大きい。
- ③ 卒業後にタイムケア等のサービスがなくなることへの不安。
- ④ 児童に対応しているヘルパーの不足。
- ⑤ 親の体調が悪いと学校のバスポイントまでの送迎ができず、学校を休ませてしまっている。（NPOなどが制度でない部分のサービスで対応している）

※ 相談窓口の明確化が必要

親にとっては、特に、発達障害などの疑いのある子どもの相談窓口が分かりにくいと、地域の方にわかりやすい広報が必要。

※ 行政の担当窓口の明確化が必要

相談支援事業所や、児童の関係機関が行政機関と連携を取るために、お互いの役割の明確化が必要。

### （2）成人期のナイトケアの必要性について

- ① 親が仕事から帰る19時、20時まで毎日、移動支援、行動援護を利用して過ごしている方がいるが、本人にとっての負担が大きいのではないか。
- ② タイムケアを利用してきた子どもの親は、卒業後も同様のサービスを希望されている。また、経済的な事情で親が働かないと、生活基盤が整わない家庭もある。
- ③ 前年度、くらし部会で実施したアンケートからは、通所している事業所での延長的なサービスを望まれているご家庭が多い。

※どのようなサービスがあったらいいのか？

- ・毎日、違う場所にヘルパーと行くのではなく、決まった場所で、定期的に利用できるフリースペースがあるといいのではないか。  
たとえば、市民開放している学校の体育館を夜間利用するなど。
- ・日中短期入所の事業所が増えるといいのではないか。

### (3) 送迎について

- ① 生活介護事業所が送迎の定員が満員で、新規に利用者を受け入れられなくなっている。
- ② 医療的ケアの必要な方の送迎が親御さん対応になっている。
- ③ ドアからドアの対応が必要な方と、通所バスの昇降ポイントと施設間の送迎に限り必要な方がいる。
- ④ 同じ時間帯に各所の施設から送迎車が行き来している。
- ⑤ ショートステイの送迎については次のことから、
  - ・一部の事業所は送迎を実施しているが、ほとんどの事業所では緊急時に親が送ることはできず、施設の職員や相談支援センターの職員が対応している。
  - ・また、定期的なショートステイの利用時に自費でヘルパー利用をしている。

#### ※どのようなサービスがあったらいいのか？

- ・福祉車両のコミュニティバスなど、施設単位の送迎スタイルでない方法の検討が必要ではないか。

### 第5回（平成 25 年 12 月 5 日）

第4回までに上がった課題のうち、「成人期のナイトケア」と「送迎サービス」について話し合いを行い、市課題として提案していく作業を行う。

### ○成人のナイトケアについて

#### (1) 実情

- ・制度としては、事業所では日中一時支援、在宅ではあんしんサポートがある。その他、移動支援や行動援護のサービスもある。
- ・第4回の(2)の現状に加え、前年度くらし部会で実施したアンケートから通所している事業所での延長サービスを望まれている家庭が多い。
- ・ソフト面、ハード面で整っているのは既存の通所施設。
- ・新規の事業所の立ち上げは高家賃や物件不足・人材確保など金銭面で困難。

## (2) 課題

- ・対象者を見守りが必要な方として、どういふサポートができるか検討する。

場所	実施サービス内容	メリット・デメリット・課題
通所施設	成人対象の日中一時延長サービス	<ul style="list-style-type: none"><li>・緊急利用で宿泊の必要のない夜間利用ができる。</li><li>・泊まる必要がなくなり、ショートステイの回転が良くなる。</li><li>・ソフト面が充実しており利用者側の安心感がある。</li><li>・区外からの施設利用者もあり、移動が困難。</li><li>・人件費、セキュリティ面での課題がある。</li></ul>
自宅	あんしんサポート	<ul style="list-style-type: none"><li>・サービスとして整っているがヘルパーが少ない。</li></ul>
室外	移動支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・制度があっても生かしきれていない。</li></ul>

- ・通常のサービスとして上記の利用例（緊急時は別のサービスを利用していく。）

- ① 日中活動終了→施設延長サービス利用→家族の迎え又は、パート運転手の送迎
- ② 日中活動終了→日中一時先へ移動 →家族の迎え又は、パート運転手の送迎

## (3) 提案

上記のサービス提供等を含めた成人期のナイトケアニーズの表面化や課題解決にむけて「行政（制度面での検討者）」、「児童期の事業所（児童期サービス提供者）」、「成人期の事業所（成人期のサービス提供者）」、「相談支援センター（ニーズの発信源）」、「ヘルパー事業所（ヘルパー運用者）」で具体的に検討していくのはどうか。

※以上の事柄を12月の川崎市地域自立支援協議会事務局会議に提案していく。

## 第6回（平成26年2月10日）

### (1) 通所施設等の送迎について

- ・通所施設の定員の空きはあるが、送迎車に空きがなく、お断りされる現実がある。
- ・施設側も送迎の対応ができず募集ができていない。
- ・福祉有償運送などを利用して通所されている方も多いが、費用負担が大きい。
- ・通所通学支援は基準があり、利用しづらい。また報酬額の低さから、受けてくれる事業所、人材が少ない。
- ・医療的ケアの必要な人で常時吸引が必要な方は家族対応になっている。

※現状として、施設の送迎に対する負担が大きい。また施設の職員は運転のプロではないので、職員の負担感も大きい。

今後、施設に頼らない新しい送迎のスタイルの検討が必要ではないか。

## (2) 各区の課題整理の状況について

川崎区	・DVD「生命のことづて」を観て全員で共有 協議会としてどういうことができるかグループワークで行なった
幸区	・地域包括支援センターとの交流会を実施 ・防災ネットワーク会議の開催
中原区	・DVD「生命のことづて」を鑑賞 協議会として、どういう取り組むができるか検討
高津区	・当事者会のテーマとして防災を取り上げていく予定 ・地域啓発等の動きが今年度は行えていない
宮前区	・防災についてのディスカッションを実施 ・「障害者サポーター事業」の啓発を今後行っていく
多摩区	・「余暇」をテーマにグループワークを実施 ・DVD「逃げ遅れる人々」を鑑賞予定
麻生区	・民生委員の会議に参加しているなかで災害時のことが話題になっているので情報共有している

※各区において、災害時への対応を検討しているところが多い。今後、各区の担当者が集まって区同士の情報交換ができてもいいのではないかと。

(次年度にむけて)

ワーキングでは、各区で取り上げてきた課題について情報共有し、全市で検討すべき課題としてまとめ、事務局会議や全体会議で報告してきました。今後、重点的に検討が必要な課題としては、①児童の相談支援体制についての情報の周知、②成人期のナイトケアの必要性、③通所施設等の送迎スタイルの見直しの3点があります。そのうち、児童の相談支援体制については、こども部会の課題として検討を継続していただきます。他の2点については、これまで抽出されている課題に並べて次年度のノーマライゼーションプランへ意見具申していく項目とすることにしました。

意見具申書としてのまとめに向けて、4月以降新たにチームを作って取り組んでいきます。

また、これまで出ている課題についての経過を市事務局会議にて共有し、解決に向けて検討していきます。

文責 なかはら基幹相談支援センター  
住舎 泰子

## 連絡会議ワーキング

### （目的）

連絡会議は、障害のある方が生活を行っていく上で課題となっていることについて、学習、施策や制度についての説明、先進的な活動の紹介を行い、これを啓発していくことを目的としています。また自立支援協議会の活動に関する報告の場としても行われています。

### （方法及び重点内容）

平成25年度はワーキンググループを立ち上げ、予定されていた全4回をすべて終了しました。今年度は、次の2点を重視して会議構成の検討や講師への依頼、時間の調整等を行いました。

1つ目は、より多くの市民に自立支援協議会の活動や障害のある方の生活課題を知ってもらうため、すべての開催において市・区自立支援協議会構成員以外の市民も参加できる公開型としました。

2つ目は、障害のある当事者が他者を介さず感じたままを伝え、支援を受ける前と後とでどのような生活の変化があったか等、自身に行われた支援を評価し、当事者が望む生活、支援のありようを参加者が感じられるようにしました。

会議を重ねながら方法を整え、当事者や支援者が壇上に立ち、それぞれの視点からテーマを語る、双方向のものとしていきました。

### （テーマ）

テーマの選定には、その時々話題となったことや、自立支援協議会構成員や連絡会議参加者からのアンケートを基に決定しました。第1回「難病の方の生活を考える」、第2回「発達障害者の暮らしを考える」は、ともに障害者総合支援法に新たに位置づけられた分野であり、対象となる方々の生活や課題をよく知る機会として、テーマに取り上げられました。第3回「こんなふうにしたい わたしの区」については、各区自立支援協議会が、それぞれどんな取り組みをしているのかをよく知り、よいところを吸収するために、特に力を入れている点について“自慢をする”機会として行われました。第4回「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」については、連絡会議参加者アンケート等からも高い関心を持たれていたテーマで、あまり考慮されてこなかったこの課題を、自立支援協議会として強く意識していることを示し、今後も取り組んでいく第1歩として行われました。

各回における内容は次の通りです。詳細については、別頁にある各回の報告をご参照ください。

・第1回

日 時：平成25年7月10日（水） 13：30～16：30

テーマ：「難病の方の生活を考える」

・第2回

日 時：平成25年9月30日（月） 13：30～16：50

テーマ：「発達障害者の暮らしを考える」

・第3回

日 時：平成25年11月29日（金） 13：30～16：30

テーマ：「こんなふうにしたい わたしの区」

～各区地域自立支援協議会の特色ある取り組みを知ろう～

・第4回

日 時：平成26年2月14日（金） 10：00～13：00

テーマ：「医療的ケアが必要な方の地域生活を支えるには」

～川崎市の現状、他地域の取り組みを知ろう～

各回の内容は「2. 連絡会議について（P. 9～P. 18）」をご参照ください。

（1年の振り返り）

今年度は公開型の連絡会議として計4回実施してきました。各回とも市内の相談支援事業者の参加割合が高いものの、市内外の当事者（団体）、就労、医療、学校関係者等からも多数ご参加いただくことができました。テーマに対しては参考になった、課題として認識することができた等、好評の意見が多く聞かれ、地域課題に対する啓発の機能がある程度果たすことが出来たと考えます。

障害のある当事者が自ら壇上で話し、自身の支援を評価していくことについては、ほとんどの参加者がその言葉を真摯に受け止めていることを示す感想が寄せられました。また、当事者からの生の声を直接聞く機会があまりなく、こうしたことが貴重であった、との意見も多く寄せられました。

（次年度に向けて）

今年度は、各回における準備期間の短さが課題に挙がりました。このことを踏まえ、次年度は年3回の企画とし、各回とも十分に準備の時間をかけていくようにしていきます。

テーマについては、昨年度のアンケートで多数声がありながらも、取り上げる事の出来なかったものを優先的に取り組んでいきます。

今年度重点的に取り組んだ、公開型の会議としたことについては、さらに多くの関係者や市民が参加できる様、広報活動に力を入れていきます。

障害のある当事者と支援者が同時に壇上に立ち、それぞれの立場で一つのテーマを話し、当事者が自身に行われた支援の評価をする場とする取り組みについては大変好評を得ていることから、次年度はこれをさらに強化し、より多くの機会を設けます。これらを通じて、相談をはじめとした支援の技術が向上し、当事者の生活がより満足に結びつくことができるような内容としていきます。

このほか、次年度は「誰もが暮らしやすい川崎市」を目指しより幅広く市民の方々に参加を呼びかけ、ともに考えあう「研究セミナー（仮称）」が開催できないかと検討し始めたところです。

（構成メンバー）

所 属	氏 名
あさお基幹相談支援センター	淵上 正道
たかつ基幹相談支援センター	栗野 まゆみ
さいわい基幹相談支援センター	小川 尚人
川崎市障害計画課	矢部 恒平

文責 あさお基幹相談支援センター  
淵上 正道

## 各区の活動報告



## 川崎区地域自立支援協議会

### <川崎区について（平成26年1月末現在）>

人口	:	218,482人
障害者手帳の取得者数	:	7,118人
身体障害者手帳		
療育手帳		1,360人
精神保健福祉手帳		1,411人

### <川崎区地域自立支援協議会の特徴>

- ① 川崎区は市内の区の中で一番面積が広く保健福祉センターと2つの支所があり、事業所も多い為、多数の構成員で形成されています。
- ② 月に1回の協議会を開催しています。全体での意見交換会の他に各グループでの委員会活動を行い、協議会を盛り上げています。

### <今年度の目標と方向性>

- ① 毎月の全体会議の中で、ひとつのテーマに対して小グループに分かれて「意見交換会」を行い、様々な立場や職種で多角的にテーマについて検討し、共有しています。
- ② 意見交換会で出された課題等については、課題整理ワーキンググループへつなげ、市内での共有を目指しています。
- ③ 「災害対策」「こども」「暮らし」という3委員会に分かれ、地域性を意識した内容で地域生活を営む上での課題を共有し、明らかにしていきます。

### <今年度の区全体会議>

第1回 4月9日（火）14:00～17:00 川崎区役所にて

各事業所の担当自己紹介と事業所紹介

今年度の自立支援協議会について

- ① 昨年度の報告
- ② 今年度の全体運営内容について
- ③ 委員会活動 ～今年度の活動方針～

その他

あおぞら共生会より平成25年5月に新設される事業所の紹介

**第2回 5月14日(火) 14:00~17:00 川崎区役所にて**

新規事業所自己紹介と事業所紹介

① 川崎区の事務局会議の報告と提案

昨年度の協議会の反省から、今年度は「意見交換」という形で話し合い、その中から課題整理グループに報告していくことを提案し了承を得られました。

②委員会活動

その他

会場の川崎区役所が手狭なため、次回からは、南部身体障害者福祉会館となりました。

**第3回 6月11日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて**

①意見交換会「障害福祉について困り事、悩み事などの意見を出し合う」

「運営主体が変わる南部療育センターの動向」

「事業所の送迎車盗難について」などの情報交換、共有しました。

②委員会活動

その他

難病についての連絡会議(7月10日実施)の案内

**第4回 7月9日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて**

①課題整理ワーキンググループからの報告

②意見交換会「精神疾患の方への栄養指導」「学齢児の放課後支援」「送迎」

「親子の高齢化」

③委員会活動

その他

手をつなぐ体育祭の参加団体への呼びかけ

川崎区内の地域活動支援センターへの声掛け案内について

「くさぶえの家 短期訓練事業」の説明について

**第5回 8月6日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて**

事業所の紹介「くさぶえの家 短期訓練事業」

地域活動支援センターへの参加の声掛けについて

①意見交換会 「親子の高齢化 ～事例を通して～」

②委員会活動

その他

ブラダー・ウィリー症候群研修会の案内

第6回 9月10日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

① 意見交換会 「親子の高齢化 ～前回のまとめ～」

第5回・6回の内容をまとめ、課題整理ワーキンググループに提案しました。

②委員会活動

第7回 10月8日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

①意見交換会 「虐待の疑い・心配のあるケースについて」

②委員会活動

その他

田島養護学校より、公開授業についての案内

第8回 11月12日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

①意見交換会 「虐待の疑い・心配のあるケースについて」

②委員会活動

第9回 12月10日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

①委員会活動

②意見交換会 「地域包括支援センターとの意見交換会」

その他

第3回川崎市地域自立支援協議会連絡会議の報告

第10回 1月14日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

①意見交換会

「生命のことづけ～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11」鑑賞

②委員会活動

その他

「川崎区第4期川崎区地域福祉計画(案)区民説明会」開催のお知らせ

第11回 2月18日(火) 14:00~16:00 南部身体障害者福祉会館にて

①今年度のまとめ

・意見交換会

・委員会活動

その他

「高齢のアルコール依存者への支援について」情報提供

## 第12回 3月11日(火) 14:00~17:00 南部身体障害者福祉会館にて

### ①来年度に向けて(アンケート結果をもとに)

- ・来年度の活動内容
- ・委員会活動

その他

事業所紹介

### <具体的な取り組み内容>

#### ○意見交換会

##### 1、全体を通して

平成 25 年度より参加者が気軽に困っていることや悩みを相談できる場として新たに意見交換会を実施しました。その結果、事業種別の異なる参加者がそれぞれの持つ悩みや課題を知ることができたこと、その上、同じような悩みを持つ事業者がいることを参加者同士で把握できました。また、一度開示した課題について答えやヒントをもらい、その後の支援の進展を参加者で共有できた等、当初想定していなかった効果もみられました。

交換会は、一つのテーマで話し合ってもらい、それを全体に報告する形で行いました。

意見交換会は、地域における課題を発見・検討するという協議会の目的のために実施しており、効果が上がっているとみています。課題の検討にまだ改善の余地はありますが、今後も継続する方向で検討しています。

##### 2、川崎区の課題について(今年度の構成員による意見交換会をもとに設定)

###### ①親子の高齢化

川崎区の特徴ともいえる、親子の高齢化。高齢の親世代の考え方(制度を利用せず、自分たちで育てていく。)など考慮し、困り感のない、他者の介入を拒むケースについて事例を基に検討しています。支援する側として、どのようなことに配慮すべきか(生活実態の把握・親子分離の必要性や介入のタイミング・関係機関の連携など)、本当に介入が必要なのかどうか。「親亡き後」について考えることができていない対象者に対して、そのような言葉を伝えるだけでも漠然とした不安を与えてしまうことも考えられます。支援者として「親の抱え込み」という見かたではなく、より対象者の気持ちや現状(「できている」)に寄り添う方法を考えていくということが必要となりました。



(意見交換会の様子)

## ②虐待の疑い・心配のあるケースについて

障害者虐待防止法が制定されて1年が経過しています。多くの構成員が通報方法や虐待の定義などの研修に参加しています。制度上の壁や通報の実態なども見えてきてはいるが、実際に虐待の疑いや心配のあるケースについてどのような対応を取り、その中で感じた対象者へのケアなどを話し合っています。

## ○専門委員会

### 1、こども委員会 ～こどもへの支援の実情を把握しよう～

こども委員会では 今年度川崎市ならではの課題に取り組もうと言う事で、年度当初検討しました。

多国籍の子どもに対して、親とのコミュニケーションが大変という現場の声がありました。障害がある、ないに関わらずどのくらい多国籍の方が住んでいるのか調べたところ、川崎市は7区中1番多いことがわかりました。

相談できる場所、どんなサービスがあるかが一目でわかる物を作ろうと、英語、韓国・朝鮮語、中国語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、日本語の8か国のパンフレットを作成しました。

公共機関や、幼児、児童に関わる機関などで、役立てることができたならばと思います。

### 2、災害対策委員会 ～地域への呼びかけ・周知～

災害への備えや災害発生時の対応など幅広い議論を行ないました。その中で委員会としてまとめた以下の提言をもって今年度の活動報告とします。

「川崎市の防災計画策定に障害当事者及びその家族や支援者を参画させること。  
東日本大震災では、障害者にとっての防災計画や備えが甘かったと評価せざるを得ない。川崎市の防災計画策定に障害者やその支援者を参加させ、障害者の目線を取り入れた、誰にとっても活用しやすい防災計画を作成すること。  
計画策定に留まらず例えば訓練への参加や日ごろの情報共有等障害者側からの積極的な参加に加え、緊急地震速報を聴覚障害があっても容易に伝達できるようにする等、普段の体制を整えることもあわせて行うこと。」

東日本大震災を自らの危機と捉え、障害者や支援者が日頃から東日本大震災のような大規模災害を意識することで自分たちは何をすれば良いかと自問自答する、そうした機会を地域で作り続けることが必要です。

### 3、暮らし委員会 ～暮らしの中での困り感～

新たな委員会発足に当たり、「障害を持つ方の暮らし」という大きな枠組みから、テーマを焦点化していくことにしました。委員は川崎区内の生活介護事業所、就労継続支援事業所、地域活動支援センターなど日中活動系サービス提供者を中心に構成されました。指針として、支援者が支援で孤立しないように「援助者を援助する」サポーターな関係をもつことで、暮らしに寄与できるのではないかと考え、支援者が日々感じる疑問に答える、情報を共有する、問題解決の糸口を話し合うといった自由な意見交換の場としました。「災害時ヘルプカードの作成」「単身生活者が急な発病時のサポート体制」「福祉マップの作成」「訪問系サービス内容及び留意点」「計画相談の仕組み」「虐待対応」など制度・システムの解釈から個別支援相談など多岐に渡りました。



(委員会活動の様子)

### <次年度はこんなことをします！・・・あるいはこんなことしたいな～>

#### ・当事者参加について

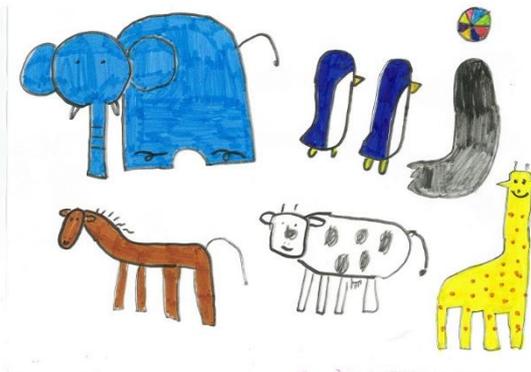
今年度は途中で当事者の方が辞退したこともあり、次年度からの当事者参加について、地域自立支援協議会への参加や当事者の声をどのような形で反映するかを検討していきます。

#### ・研修

自立支援協議会として「地域づくり」を進めていくうえで、構成員が課題の確認ができるような研修を実施し、地域で暮らす障害者の方へ支援者としてどのようなことができるのかを共有していきます。また、広報については地域に発信する方法を検討していきます。

#### ・意見交換会

今年度設定した意見交換会では、意見を出しやすく、構成員が抱えている悩み等が多くだされました。来年度はさらに内容を発展させ、テーマに対して、具体的な支援方法や地域との連携などが整理できるような意見交換会にしていきます。



文責：かわさき基幹相談支援センター  
小田川 容子

平成 25 年度川崎区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	かわさき基幹相談支援センター	阿部 千鶴子
2		熊谷 真理
3		小田川 容子
4		楠瀬 翠
5	地域相談支援センター ふじみ	北嶋 寛子
6		中里 光宏
7	地域相談支援センター いっしょ	加藤 祥子
8	地域相談支援センター かわさき Life	七井 貴洋
9	川崎区保健福祉センター	加藤 啓史
10	大師地区健康福祉ステーション	鈴木 孝幸
11	田島地区健康福祉ステーション	大谷 遼馬
12	川崎市精神保健福祉センター 地域支援担当	三井 真由美
13	川崎市障害者更生相談所	藤井 隆
14	南部地域療育センター	戸村 美緒里
15	南部地域療育センター 準備室	小島 久美子
16	川崎市発達相談支援センター	佐々木 一成
17	川崎区社会福祉協議会	下北 直由佳
18	川崎市立田島養護学校 地域支援	田中 雄三
19	川崎市立田島養護学校 PTA	齋藤 政代
20	川崎市身体障害者協会	菅野 とき
21	ゆずりは園	国貞 敦士
22	わたりだ	三宅 武幸
23	むぎの穂	泊 昇
24	かざぐるま	
25	ノーマ・ヴィラージュ聖風苑 いけがみ	徳永 由紀子
26	れいんぼう川崎	浦田 健司
27	南部身体障害者福祉会館作業室 飛行船	松尾 潔
28	ふじみ園	丸山 尚
29	青丘社 ほっとライン	西巻 奈美

30	川崎南部就労援助センター	西村 和恭
31	わーくす大師	岸岡 裕江
32	わーくす日進町	長尾 早苗
33	わーくす大島	松塚 典昭
34	川崎市盲人図書館	安藤 恵子
35	地域活動支援センター かもめ	岩崎 祐一郎
36	地域活動支援センター なのはな	小林 伸也
37	地域活動支援センター 糸ぐるま	安藤 敏
38	地域活動支援センター がんばるぞ大師	鈴木 貴彦
39	川崎市わーくす川崎 開設準備室	石井 淳

## 幸区地域自立支援協議会

### <幸区について（平成26年1月末現在）>

人口	:	157,474人
障害者手帳の取得者数	:	4,899人
身体障害者手帳		
療育手帳		963人
精神保健福祉手帳		1,029人

### <幸区地域自立支援協議会の特徴>

#### ① 幸区地域自立支援協議会の構成員について

相談支援事業所（4ヶ所）と保健福祉センターを中心に、障害福祉サービス事業所、特別支援学校、障害児者専門機関、当事者からの参画していただいて運営しました。

#### ② 幸区地域自立支援協議会実施状況について

事務局会議（月1回）と全体会議（月1回）を実施しています。

事務局会議は今年度より地域相談支援センター3ヶ所も事務局メンバーとして運営に携わることとなり、基幹相談支援センター、保健福祉センターと共に、全体会議で取り上げる内容、委員会の取り組みなどについて確認を行いました。

全体会議では全体での協議をする場と委員会ごとの活動を行う場に分かれて、2部構成の開催としました。

### <今年度の目標と方向性>

#### ① 連携委員会

利用者に必要な情報やサービスが得られるよう、地域の体制作りを目指します。昨年度実施した地域包括支援センターとの連携、特別支援学校との連携を引き続き実施します。

また、民生委員へのアンケートで挙げた意見をもとに、民生委員との連携を図りたいと考えています。

#### ② 広報委員会

相談支援改編と幸区地域自立支援協議会の周知を目的に地域市民向けの広報誌作成、川崎市のホームページの活用などの広報活動で、幸区地域自立支援協議会の認知度をあげていきます。

#### ③ 当事者委員会

当事者の方が抱えている生活のしづらさ、想いを声に出してもらい、住みやすい地域づくりに向け当事者中心の委員会を目指していきます。今年度は当事者の方が協議会に参加しての2年目であり、幸区地域自立支援協議会メンバーとしての意識を改めて確認し、地域で生活する当事者の方々の声を生かし、生の声を発信できる機会を設けていきたいと考えています。

#### ④ 課題整理委員会

福祉サービスにおける様々な課題についてのニーズを把握したり、必要に応じて市へ提言するための準備をします。昨年度に実施した「成人期のナイトケア」アンケートについて、引き続きニーズや課題を分析しました。

また、地域生活での課題がより多く吸い上げることができるような機会を検討、実施し、どんな小さな課題でも、皆で情報を共有して日々の支援に活かしていきたいと考えています。

### ＜今年度の区全体会議＞

第1回 4月16日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

各事業所の担当自己紹介と事業所紹介

市協議会と区協議会の目的、機能について確認

今年度の自立支援協議会について

- ・今年度の年間予定
- ・事務局に地域相談支援センターも今年度より参加
- ・委員会の確認（昨年度に引き続き継続）

①連携委員会 ②広報委員会 ③当事者委員会 ④課題整理委員会

第2回 5月21日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

各委員会より今後の予定について報告。

- ・連携委員会：民生委員との連携、地域包括との情報交換についての検討  
田島養護学校保護者への説明会検討。
- ・広報委員会：広報誌内容の検討。
- ・当事者委員会：当事者の関わりについて検討。
- ・課題整理委員会：ナイトケアアンケート（昨年度）集計。

第3回 6月18日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

幸区福祉避難所ネットワーク協議会について説明。

区協議会摘録フォーマット、各委員会記録についての確認。

市協議会ワーキンググループ報告

- ・連携委員会：民生委員、田島養護学校との連携検討。
- ・広報委員会：広報誌レイアウト検討。
- ・当事者委員会：6月24日（月）第1回当事者参加についての打合せ。  
昨年度振り返り、協議会委員としての役割確認、今年度の方向性確認。
- ・課題整理委員会：ナイトケアアンケート集計、課題の挙げ方についての検討。

- 第4回 7月16日(火) 14:00~17:00 幸区役所内プレハブ  
事例検討  
フリートーク(グループに分かれて、課題の抽出)  
・連携委員会: 民生委員、田島養護学校との連携進捗状況確認、検討。  
・広報委員会: 広報誌レイアウト検討。  
・当事者委員会: 7月29日(月)第2回当事者参加についての打合せ。  
今年度活動検討(当事者委員として相談支援センターの周知など。)  
・課題整理委員会: フリートーク内容のカテゴリー分け。
- 第5回 8月20日(火) 15:00~17:00 御幸日中活動センター  
市協議会ワーキンググループ報告  
区自立支援協議会まとめについての提案、協議  
・連携委員会: 田島養護学校 PTA 家庭学級説明会内容、地域包括との交流会内容検討。  
・広報委員会: 広報誌作成作業、ホームページ活用検討。  
・当事者委員会: 8月26日(月)第3回当事者参加についての打合せ。  
当事者目線のパンフレット内容検討、11月より区内施設3ヶ所、田島養護 PTA 家庭学級(連携委員企画)にて当事者による体験談、協議会での役割などの説明を実施予定。  
・課題整理委員会: カテゴリー分けした課題についての検討。
- 第6回 9月17日(火) 15:00~17:00 御幸日中活動センター  
区協議会の年間まとめについて、目を通してもらえるようなボリューム感、内容。共通フォーマットを作成予定。  
各委員会で作成するパンフレット類について、ターゲット、内容の重複などはないかの確認作業。  
市協議会ワーキンググループ報告  
・連携委員会: 田島養護学校 PTA 家庭学級説明会内容、地域包括との交流会内容検討。  
・広報委員会: 区協議会パンフレット「わいわいさいわい」作成中。  
・当事者委員会: 当事者による体験談原稿作成。  
・課題整理委員会: カテゴリー分けした課題についての報告。区内で解決できること、課題整理ワーキングにあげる仕分け。
- 第7回 10月15日(火) 15:00~17:00 御幸日中活動センター  
第3回川崎市地域自立支援協議会連絡会議における幸区発表テーマについての

検討。発表者選出について各委員会へ依頼。

市協議会広報ワーキンググループ報告

- ・連携委員会：田島養護学校 PTA 家庭学級説明会内容、地域包括との交流会内容検討。
- ・広報委員会：区協議会パンフレット「わいわいさいわい」広報場所、配布枚数等検討。
- ・当事者委員会：幸区内訪問施設など検討。
- ・課題整理委員会：区内で検討すべき課題、具体的動きに向けての検討。

第8回 11月19日（火）14：00～17：00 幸区役所プレハブ

事例検討

市協議会広報ワーキンググループ報告。

- ・連携委員会：田島養護学校 PTA 家庭学級説明会内容、地域包括との交流会内容検討。
- ・広報委員会：区協議会パンフレット「わいわいさいわい」完成。
- ・当事者委員会：幸区内訪問施設を別日程で訪問。
- ・課題整理委員会：おやじの会（仮称）立ち上げに向けての企画検討。

第9回 12月17日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

幸区福祉避難所ネットワーク協議会報告。

市協議会広報、課題整理ワーキンググループ報告。

- ・連携委員会：田島養護学校 PTA 家庭学級説明会報告、地域包括との交流会内容検討。
- ・広報委員会：区協議会パンフレット「わいわいさいわい」取り扱いの検討。
- ・当事者委員会：幸区内訪問施設を別日程で訪問。
- ・課題整理委員会：おやじの会（仮称）立ち上げに向けての企画検討。

第10回 1月21日（火）14：00～17：00 日吉出張所

高齢障害分野意見交換会。

障害、高齢制度説明、グループワーキング。

市協議会広報ワーキンググループ報告。

区自立支援協議会まとめについての提案。

第11回 2月18日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

区役所障害者支援係職員より課題提案。

市協議会ワーキンググループ報告。

区協議会予算について。

各委員会にて今年度まとめ、次年度に向けての確認。

第12回 3月18日（火）15：00～17：00 御幸日中活動センター

今年度振り返り、次年度に向けての方向性確認。

各委員会にて次年度の具体的な取り組み、スケジュールの確認。

## <具体的な取り組み内容>

### ○全体

- ・年度初めに市協議会と区協議会の目的を確認する場を持った事で、果たすべき役割について共通認識を持つ事ができました。また、全体会議進行を事務局構成員、全体会議記録を区協議会構成員で持ち回りとする事で、区協議会の構成員としての意識を持てるようにしました。
- ・各委員会の活動を摘録に残して、その記録を全構成員に随時メール配信することで、幸区で取り組んでいる内容を全構成員が理解し共有できるよう努めました。

### ○連携委員会

- ・平成25年7月17日の幸区民生委員協議会会長連絡会で、平成24年度アンケートの集計結果の報告と、協議会の説明を行いました。
- ・平成25年12月6日の田島養護学校 PTA 家庭教育学級において、養護学校の保護者を対象に、「豊かな地域生活をおくるために」というテーマで、川崎市の相談支援の仕組みの説明や、相談支援センターの機能の紹介、当事者委員会の協力を得て、当事者自らが、地域でどのような生活をしているのか、発表を行いました。
- ・平成26年1月21日 幸区内の地域包括支援センターと区協議会の意見交換会を企画しました。パワーポイントで、互いの支援内容について説明を行い、グループディスカッションで情報交換などを行いました。

### ○広報委員会

- ・幸区地域自立支援協議会の活動内容の周知を目的として、広報パンフレット「わいわいさいわい」を作成しました。
- ・幸区ホームページの活用方法について検討しました。

### ○当事者委員会

- ・障害者相談支援センター利用案内パンフレット「これ知っとう！さいわい」を作成しました。
- ・幸区内にある日中通所施設3ヶ所を訪問し、作成した利用案内パンフレットの配布お

よび当事者委員による利用体験談発表を通じて、障害者相談支援センターについてPRをしました。

#### ○課題整理委員会

- ・フリートークによる課題抽出を行い、課題をカテゴリー分けしました。
- ・「おやじの会」立ち上げのためのイベント「お父さんと障がいがある子どものアートフットボール講座」を開催しました。



#### <次年度はこんなことします！…あるいはこんなことしたいな～>

- ・今年度同様に、協議会構成員のネットワークを活かしながら、障害分野、児童分野、高齢分野などとの連携を図る企画を検討します。また、連携を視点に置いたテーマを設け、ネットワーク作りに着手するなど、活発な取り組みを行います。
- ・幸区地域自立支援協議会パンフレット「わいわいさいわい」のリニューアル及び幸区ホームページを活用します。
- ・「障害者相談支援センター」をもっと多くの方に知ってもらうため、平成25年度中に訪問できなかった日中通所施設や他の事業所にもPRを行います。
- ・平成27年度の当事者委員の選任方法について具体的に検討を行い、幸区地域自立支援協議会らしい「当事者参加」を目指します。
- ・おやじの会立ち上げのためのイベント開催は、余裕をもって場所などの確保に努め、ゆとりある申込期間を設定し、情報提供も丁寧に行っていきます。
- ・小さな課題にも目を向け、解決していく姿勢を持つことをテーマに、来年度もフリートーク形式で、課題抽出をはかります。
- ・現在の委員会の形態を残しつつ、出てきた課題に柔軟に取り組めるよう、全体組織について検討します。

文責：さいわい基幹相談支援センター  
小川 尚人

幸区地域自立支援協議会 構成員

	所属	氏名
1	幸区役所高齢障害課障害者支援係	浅谷 初穂
2		鶴見 亜呂
3	さいわい基幹相談支援センター	小川 尚人
4		野村 鼓
5		林 京子
6		小島 洋樹
7	地域相談支援センターラルゴ	日野 淳
8		和田 緑
9	地域生活支援センターあんさんぶる	吉澤 美香
10		勝呂 ちひろ
11	障害者生活支援センターりぼん	小林 しのぶ
12		熊澤 真美
13	御幸日中活動センター	馬場 忠司
14	川崎ふれあいの会	牧野田 恵美子
15	南部地域療育センター	高野 真悟
16	南部地域療育センター準備室	江良 泰成
17		井上 純
18	市立田島養護学校	田中 雄三
19	県立中原養護学校	千葉 綾子
20	県立鶴見養護学校	大関 進也
21	れいんぼう川崎在宅支援室	浦田 健司
22	精神保健福祉センター	三井 真由美
23	障害者更生相談所	小嶋 和津江
24		藤原 美和
25	当事者の方（委員会と別日設定）	大屋 一郎
26		斉藤 利勝
27		寺田 和史
28		小林 永理矢
29		根岸 富士男

## 中原区地域自立支援協議会



### <中原区について（平成26年1月末現在）>

人口	:	240,888人
障害者手帳の取得者数	:	4,894人
身体障害者手帳		
療育手帳		995人
精神障害者保健福祉手帳		1,171人

### <中原区地域自立支援協議会の特徴>

- ①保健福祉センターと相談支援事業所を中心に、障害福祉サービス提供事業所、教育機関など構成員も多岐になっています。
- ②月1回の全体会議に向けて、保健福祉センター・相談支援事業所による事務局会議を毎月実施しています。
- ③当事者の方が主催する集いの場「なかはらファミリー」を協議会がバックアップする形で開催しています。準備段階から実行委員の方と打ち合わせを重ね、第5回なかはらファミリーを実施しました。
- ④川崎市地域リハビリテーションセンターの再編の動きがあり、既存施設の移転や、改修及び新規施設の整備が行われています。再編整備による民間法人等の指定管理受託で、今後も変化が予想されます。
- ⑤今年度は事前に割り振りを行い、各月ごとに各委員会の中から1実践例を出し合い検討する機会を設けています。

### <今年度の目標と方向性>

- ①地域移行委員会…昨年度課題としてあがった地域移行の課題、「地域の受け皿の少なさ」を元に、受け皿となるGH/CHを運営している市内の法人向けに物件確保についてのアンケートを実施します。また、実際に支援を受けながら地域移行を目指している当事者の方をゲストにお呼びして、地域移行に向けての実際を話していただき、構成員でさらに課題などを検討し、理解を深めていきます。
- ②まちづくり委員会…避難所と二次避難所との関係性、二次避難所と関係の深い地域福祉課との連携、要援護者登録の現状など今年度は防災にスポットを当て、地域の防災対策への理解を深めると共に、課題を抽出していきます。
- ③児童委員会…昨年度実施したアンケートを集約し、課題の抽出・検討や、実践を通して感じる児童の支援、児童相談支援の課題整理表にて検討します。また、児童に関する行政の体制がわかりにくいといった声から、児童家庭課の方をゲストに招き、児童相談についてお話しいただき理解を深めていきます。

- ④なかはらファミリー…昨年度から引き続き、当事者主体の集いの場を後方支援します。
- ⑤なかはら健康福祉まつり…協議会として参加。中原区のゆるキャラを作ります。
- ⑥パンフレット…センターの名称等が大きく変わったため、新たなものを作成します。

＜今年度の区全体会議と専門部会＞

**第1回 【全体会議】 4月19日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・自己紹介 ・平成24年度の活動内容の振り返り
- ・今年度の活動内容・年間予定確認 ・役割分担

**第2回 【全体会議】 5月17日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・区役所からの情報提供・川崎市地域自立支援協議会の報告
- ・専門委員、渉外・広報活動話し合い

**第3回 【専門委員会】 6月21日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・児童委員会…昨年実施したアンケートの考察・課題の抽出  
わになろう会より「学齢期の不登校児に対するケア」実践例の報告・検討
- ・地域移行委員会…ケアホームを運営している法人へ、物件を探す上での問題点等のアンケート実施（7～8月）
- ・まちづくり委員会…二次避難所との関係が深い、健康福祉局地域福祉部地域福祉課との連携。質問項目の精査（要援護者登録者数、障害種別の対応、二次避難所数など）
- ・なかはらファミリー…実行委員、第5回なからはファミリーの日程の決定。

**第4回 【全体会議】 7月19日（金）14：00～17：00 桜の風**

- ・桜の風の施設見学、施設概要、ショートステイ機能について説明
- ・地域移行委員会実践例の検討 〈ゲストスピーカーをお呼びしての報告会〉  
～長期入院からの地域移行／『病院から退院してグループホームに入りたい！』～
- ・グループ討議

**第5回 【専門委員会】 8月23日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・まちづくり委員会…高齢・障害課早坂課長をゲストスピーカーにお呼びして、2次避難所についての質問に対し、回答をいただく。
- ・児童委員会…実践例の検討～ご家族（母）が入院してしまった4歳の児童～
- ・地域移行委員会…アンケートを10月中に送信予定。
- ・なかはらファミリー…日程の決定・報告、チラシの配布
- ・パンフレット…広報グループと連携し、パンフレット作成。年間まとめ冊子の検討。
- ・なかはら福祉健康まつり → ゆるキャラのプリントTシャツ作成を検討。

**第6回 【全体会議】 9月20日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・児童家庭課サポート担当青木氏より業務内容や対象者などについて。
- ・児童関係各事業所より（わになろう会・ドナルド・療育センター）
- ・児童委員会より実践例の検討。／療育センター杉田氏より
- ・実践例の発表を聞いてグループ討議。

**第7回 【専門委員会】 10月18日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・くさぶえの家より自閉症者短期訓練事業の案内。
- ・まちづくり委員会…来年度に向けた方向性について検討。（地域ケア会議の参加）
- ・児童委員会…中原区の地域課題が他区ではどうなのか検討。
- ・地域移行委員会…アンケートを配布し、集計後、課題を明らかにし、来年度につなげる。
- ・なかはらファミリー…10月12日（土）第5回実施。
- ・なかはら健康福祉まつり…マグネットの作成を検討、チラシとともに配布予定。

**第8回 【全体会議】 11月15日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・まちづくり委員会より、災害時要援護者登録について、二次避難所について説明。
- ・すみよし地域包括支援センター佐藤氏より、地域包括の防災への取り組みについて。
- ・HUG（避難所誘導ゲーム）の体験・意見交換。
- ・11月16日（土）なかはら健康福祉まつりに参加。

**第9回 【専門委員会】 12月20日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・委員会ごとの話し合い。（公開報告会について・年間まとめ冊子について）
- ・地域移行委員会…11月に実施したホーム立ち上げ時のアンケート調査の集計。

**第10回 【全体会議】 1月17日（金）14：00～17：00 サンライブ**

- ・「生命のことづけ」DVD観賞、意見交換。
- ・今年度の予算の中間報告、残りの予算の使い道について。
- ・1月23日（木）公開報告会について。
- ・第6回なかはらファミリー…2月15日（土）（雪のため中止）

**第11回 【専門委員会】 2月21日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・委員会・渉外広報活動ごとに分かれ、来年度に向けて話し合い。
- ・次年度の当事者参加について。

**第12回 【全体会議】 3月14日（金）14：00～17：00 中原区役所**

- ・来年度に向けて各委員会の方向性の共有。
- ・グループに分かれて、方向性の検討・意見交換。

## ＜具体的な取り組み内容＞

### ① 委員会としての取り組み



#### まちづくり委員会

- ・今年度は防災にスポットを当て、中原区の災害対策について検討しました。
- ・避難所・二次避難所の体制や要援護者登録の現状や課題について、中原区高齢・障害課の早坂課長に講義をいただき、災害対策の理解を深めました。
- ・避難所誘導ゲーム（HUG）の体験を通し、実際に震災が起こった時に避難所ではどのようなことが起こりうるのか、避難所を運営する側の視点を学びました。
- ・東日本大震災時のDVD「命のことづけ」を鑑賞し、構成員で意見交換を行いました。
- ・防災における障害者を取り巻く問題は、日頃からの地域のつながりが大切ということ、地域住民の力は災害時の力となり、協力して発災時の災害を乗り越えていくためにも「防災」というテーマを地域全体で考えていくことの必要性を学びました。

#### 地域移行委員会

・今年度は7月に、実際に病院からの地域移行を目指している方をゲストスピーカーにお呼びし、『病院から退院してグループホームに入りたい』という想いや、これまでの経緯、これからの目標などインタビュー形式でお話をいただきました。話を聞く中で、短期間で地域移行を進めていくことの難しさや、「段階を踏んで繰り返し取り組む」ことの大切さなどを学びました。



・地域移行を考えた時、受け皿となるホームの数が少ないということや、ホーム開所自体に困難があるという話を受け、情報収集と開所準備の状況、今後の事業展開を調査すべくアンケート調査を実施しました。障害がある方のホームであることを理由に不動産から断られるケースも多く存在することなど運営側の視点から課題を抽出しました。

・アンケート結果を集計し、課題に対して協議会としてどのような形でアプローチできるのか委員会で検討しました。

#### 児童委員会

- ・昨年度に実施した「生活介護事業所における看護師業務及び医療的ケアに関するアンケート」を集約し、課題を抽出しました。福祉の現場では医師からの指示が受けられない状況で看護師に任されてしまっていること、看護師の業務が不明瞭であること、一人職種で相談できる相手がいないこと等の回答があり、看護師が継続して働くことができる環境づくりが課題であることや、看護師の方が仕事を

続けていくためにも、福祉系の看護師の連絡会やネットワークの構築を図り、福祉と医療の連携が取れるような環境整備が必要であることが明らかになりました。

- ・今年度は実践例の検討にも力を入れました。実践を通し、親の病気やけがによる一時的、緊急的な支援の難しさ、ヘルパー事業所の不足、行政窓口の不明瞭さなどの課題があがりました。
- ・行政窓口の不明瞭さに関して、児童家庭課児童家庭相談サポート担当の方をお招きし、児童関係の行政窓口についてご説明いただきました。



はじめまして！  
なかはらっくです！！

## ② 渉外・広報活動

### なかはら福祉健康まつり：11月16日(土)

- ・今年度、中原区地域自立支援協議会のゆるキャラ「なかはらっく」が当事者のイラストから誕生しました。
- ・当日は中原区地域自立支援協議会のブースを設置し、協議会を広く知ってもらえるように、足を運んでくださった方を対象に協議会の印字がされている色鉛筆を配布しました。また、ゆるキャラ「なかはらっく」のぬり絵コーナーを設置し、小さいお子さんがその場で「なかはらっく」に色付けできるようにし、楽しい時間を過ごしてもらいました。

### 公開報告会：1月23日(木)

- ・川崎市内の地域自立支援協議会構成員、中原区内関係機関及び一般市民向けに、中原区地域自立支援協議会専門委員会の報告を中心に、取り組み内容の発表を行いました。しかし、一般参加はほとんどなく、協議会メンバーの参加がほとんどであったため、今後の取り組みについては検討が必要です。

### 中原区地域自立支援協議会パンフレット

- ・今年度は相談支援の再編に伴って事業所名など、大きく変更があったため、改訂版を作成し、なかはら福祉健康まつり等の機会に配布しました。

### なかはらファミリー：10月12日(土)、2月15日(土) ※2月雪のため中止

- ・当事者主体の集いの場として、今年度は実行委員3名を中心に活動してきました。自立支援協議会としては活動の後方支援をしており、実行委員と月1回程度の打ち合わせを重ね、当日のプログラムやチラシの作製、参加者の募集をしてきました。当日は、ゲームやししゃべり場で盛り上がりました。

<次年度はこんなことします！…あるいはこんなことしたいな〜>



- ① 協議会への当事者参加推進について、なかはらファミリーの取り組みを実施している一方で、全体会議や専門委員会への当事者参加は実践例の検討の講師としてお呼びした等の実績にとどまっています。今後は、各委員会に当事者や地域の方々が参加したり、地域の声が協議会に届けられるような形を考え、実践していきたいです。
- ② 今年度実施した、各委員会持ち回りでの実践例の発表を継続していきたいです。実践を通して感じたことや課題を共有し、解決に向けて様々な立場から考えを出し合うといった協議会の形を大切にしていきたいです。そのためにも構成メンバーの在り方や活発な意見交換ができる雰囲気づくりも検討していきたいです。
- ③ 今年度から地域包括支援センターが自立支援協議会に参加してくださり、高齢分野とのつながりができました。特にまちづくり委員会で取り上げた「防災」について、高齢分野では民生委員や町会との連携を密に図っていることを知りました。今後は、地域ケア会議等に参加するなど、地域との連携をさらに深めていきたいと考えています。

文責：なかはら基幹相談支援センター  
広瀬 潤



「協議会のひとこま」HUG（避難所誘導ゲーム）の体験



「UNO」もりあがるね！！



「なかはらファミリー」  
しゃべり場「みんなで話そう」

中原区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	中原区役所保健福祉サービス課障害者支援係	櫻井 直子
2		吉見 有香
3		山名 昭一郎
4	なかはら基幹相談支援センター	住舎 泰子
5		広瀬 潤
6		井上 文香
7	障害者生活支援センターようこう	大塚 高志
8	もとすみ地域相談支援センター	阿部 千鶴子
9		只野 美緒
10		須藤 さよ
11	地域相談支援センターすまいる	猪野田 丈裕
12		大杉 美保
13	精神保健福祉センター	森江 信子
14	地域生活支援センター カシオペア	鈴木 宏直
15	川崎市中央療育センター 入所部	清水 美由貴
16	川崎市中央療育センター 地域移行推進部	山崎 健一
17	川崎市中央療育センター 通所部	武藤 みや子
18	めいぼう	斉藤 由美
19	わーくす中原	河合 鉄士
20	NPO法人 わになろう会	新井 靖子
21	神奈川県立中原養護学校	加藤 佳子
22	市立聾学校	吉村 秀子
23	聴覚障害者情報文化センター	今宮 清明
24	児童発達支援事業所ドナルド2	酒井 里美
25	ダンウェイ株式会社	光武 知枝美
26	障害者更生相談所	小嶋 和津江
27		飯野 淳子
28	中部就労援助センター	橋本 瞳
29	桜の風	藤野 真一
30		高柳 雄一
31		真野 優作
32	とどろき地域包括支援センター	北川 大
33	みやうち地域包括支援センター	足立 亮一
34	すみよし地域包括支援センター	高橋 遼

## 高津区地域自立支援協議会

＜高津区について（平成26年1月末現在）＞

人口	:	223,050人
障害者手帳の取得者数	:	
身体障害者手帳		5,007人
療育手帳		1,224人
精神障害者保健福祉手帳		1,437人

### 🍌＜高津区地域自立支援協議会の特徴＞🍌

- ① 相談支援事業所と保健福祉センターを中心に、構成員は29名となっています。  
月1回の全体会議にむけて、事務局会議で全体的な流れの確認や打ち合わせを実施しています。全体会議の流れは、各種会議の報告及び課題の検討、個別支援経過報告（事例発表）、各専門委員会の取り組みとなっています。
- ② 各専門委員会の取り組みは、3つに分かれており（相談支援・課題整理・ボランティア育成）、それぞれの専門委員会が中・長期的な目標（一昨年度、5年計画を立て、5年後高津区が障害のある方にとって身近な住みよい場所になるようにという目標に向かって取り組んでいます）に向かって、切磋琢磨しながら行っています。今年度は3年目の取り組みになります。

### 🍌＜今年度の目標と方向性＞🍌

- ① 専門委員会の中・長期的な目標の確認をしながら、3年目の取り組みとして、具体的な活動を発信できる年度と捉えています。また、地域との交流会等を実施し、地域との交流を深めます。
- ② 個別支援経過報告（事例発表）は、毎月実施します。年間スケジュールに従い、各構成メンバーが各分野からの課題点を共有できるように配慮します。
- ③ 各専門委員会の動きが不透明にならないように、定期的な報告を実施します。各専門委員会の取り組みで、他の委員会との連携が必要な場面では、協力を依頼する体制作りを行います。

### 🍌＜今年度の区全体会議＞🍌

第1回 4月23日（火）13:30～17:00 高津区役所にて

- ◎構成員メンバーの自己紹介
- ◎今年度の協議会組織構成の確認 全体会議での役割分担の確認（進行、記録、事例提出の分担）
- ◎昨年度までの取り組み内容の確認
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援②課題整理③ボランティア育成）

**第2回 5月28日(火) 13:30~17:00 高津区役所にて**

- ◎各構成員からの課題提出・新年度の動きの報告
- ◎各種会議等報告（①市事務局会議 ②市全体会議 ③高津区まちづくり協議会）  
まちづくり協議会の「区内福祉施設めぐりエコバスツアー」に協力。
- ◎検討事項（新規指定特定相談支援事業者の参加について）
- ◎市協議会ワーキンググループ参加について確認
- ◎個別支援経過報告（精神疾患をもつ女性の支援）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成）

**第3回 6月25日(火) 13:30~17:00 高津区役所にて**

- ◎各種会議等報告（①高津区まちづくり協議会 ②桜の風入所調整会議）
- ◎就労継続支援B型の取り扱いの変更について確認
- ◎個別支援経過報告（障害福祉サービスから介護保険サービスへの利用移行者について）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成）

**第4回 7月23日(火) 13:30~17:00 高津区役所にて**

- ◎各種会議報告（①事務局会議 ②基幹相談支援センター運営会議 ③市協議会  
課題整理ワーキング ④広報ワーキング）
- ◎個別支援経過報告（自閉傾向でホーム近隣の方とのトラブルのある方）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成）

**第5回 8月27日(火) 13:30~17:00 高津区役所にて**

- ◎各種会議報告（①事務局会議②まちづくり協議会③高津区福祉避難所ネットワーク会議）
- ◎各専門委員会からの報告・提案（課題整理委員会より、出前講座の中での役割分担について提案）
- ◎検討事項（まちづくり協議会 交流会について）
- ◎確認事項（①夏休みを楽しく過ごす会 ②特定指定事業者2事業9月より協議会参加と確認）
- ◎個別支援経過報告（家庭環境の変化によりサービスを開始した方）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援②課題整理③ボランティア育成）

**第6回 9月24日(火) 13:30~17:00 高津区役所にて**

- ◎各種会議報告（①事務局会議②課題整理ワーキング③広報ワーキング）
- ◎各専門委員会からの報告、提案（①相談支援・・・冊子の内容について検討中）

- ②課題整理・・・出前講座はメニュー作成中。年内に実施予定
- ③ボランティア育成・・・ボランティアセンター立ち上げについてボランティア団体と打ち合わせ中。具体的内容を詰めているところ)
- ◎確認事項（10月 ケアマネ連絡会との交流会の内容について）
- ◎個別支援経過報告（養護学校の教育目標や内容など）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援②課題整理③ボランティア育成）

**第7回 10月22日（火）13：30～17：00 高津区役所にて**

- ◎各種会議報告（①連絡会議 ②課題整理ワーキング ③広報ワーキング）
- ◎検討事項（ケアマネ連絡会との交流会）
- ◎個別支援経過報告（中央療育センターの支援内容について）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援②課題整理③ボランティア育成）

**第8回 11月27日（水）13：30～17：00**

- ◎各種会議報告(①課題整理ワーキング ②広報ワーキング ③ケアマネ連絡会との交流会)
- ◎各専門委員会からの報告（①ボランティア・・・「暮らしの応援所・ちょこっと」の説明 ②課題整理・・・出前講座の進捗状況）
- ◎検討事項（まちづくり協議会との交流会）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成）

**第9回 12月24日（火）13：30～17：00**

- ◎各種会議報告（①課題整理ワーキング ②広報ワーキング ③連絡会議 ④ええんじゃないか祭り）
- ◎各専門委員会から（課題整理・・・出前講座デモンストレーション発表）
- ◎検討事項（精神福祉講座）
- ◎確認事項（まちづくり協議会との交流会）
- ◎各専門委員会の取り組み(①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成)

**第10回 1月28日（火）13：30～17：00**

- ◎各種会議報告（①課題整理ワーキング②広報ワーキング③まちづくり協議会との交流会）
- ◎各専門委員会からの報告（①相談支援・・・冊子の作成が今年度内にできる予定②課題整理・・・課題を整理中③ボランティア・・・暮らしの応援所・ちょこっとについて検討中）
- ◎検討事項（①年間の活動まとめ ②今年度の購入物品）
- ◎各専門委員会の取り組み（①相談支援 ②課題整理 ③ボランティア育成）

## 第11回 2月25日(火) 13:30~17:00

- ◎各種会議報告(①課題整理ワーキング ②広報ワーキング ③地域包括支援センターとの意見交換会)
- ◎今年度のまとめ(①専門委員会 ②情報交換の在り方 ③企画内容 ④構成員、当事者参加等について)
- ◎予算、購入物品の確認
- ◎各専門委員会の取り組み(①相談支援②課題整理③ボランティア育成)

## 第12回 3月25日(火) 13:30~17:00

- ◎各種会議報告(①市事務局会議②市全体会議③基幹センター運営会議)
- ◎今年度の購入物品の確認
- ◎来年度の運営・組織について
- ◎各専門委員会の取り組み(①相談支援②課題整理③ボランティア育成)

## <具体的な取り組み内容>

各専門委員会ともに、5年計画の3年目の取り組みを行っています。

### ◎相談支援専門委員会

現在、それぞれの年齢に合わせた制度やサービスのガイドブックはありますが、網羅したものがあまりないことから、児童期から高齢に至るまでをまとめた冊子を作成中です。今年度は課題点を話し合いながら分担したところを作成しました。来年度は必要なところは修正し、編集の仕方を考えていきながら、より使いやすいものにしていく予定です。

### ◎課題整理専門委員会

- ・議事録用紙に課題点記入欄を設け、区協議会の会議で課題として気づいた事柄を記入することで、課題が出しやすくなるようにしました。また、出された課題については定期的に委員会が集約し、全体で検討していくような枠組みを作りました。
- ・昨年度課題としてあがっていたヘルパー事業所に対する出前講座を実施する予定で、その準備をしています。今年度は、講座で伝えていく内容を決め、区全体会議で発表のデモンストレーションと意見交換をしました。今後、内容の修正をし、来年度実際に行っていく予定です。

### ◎ボランティア育成専門委員会

「暮らしの応援所・ちょこっと」を立ち上げることを目指して、今年度は具体的な活動内容や場所、準備等について話し合いました。「ちょこっと」は、日常生活のちょっとした

た困り事へのお手伝いをする場で、当事者もボランティアも、互いに日常生活の中でちょこっと助け合うことのできる場所と考えています。一昨年度、昨年度に社会福祉協議会と共催で実施したボランティア講座の修了者が立ち上げたボランティア団体の参加を得ながら、活動を進めています。

🎈<次年度はこんなことします！…あるいはこんなことしたいな～>🎈

◎次年度は、高津区地域自立支援協議会で取り組んでいる5年計画の4年目にあたります。相談支援、課題整理、ボランティア育成の各専門委員会ともに、地域に積極的に出ていき、実践を積み重ねていく年にしていきます。

◎3つの専門委員会を中心にしながら、地域の方にもっと知っていただき、ネットワークを広げていくために、広報、交流活動にも力を入れていきます。

文責：たかつ基幹相談支援センター  
栗野 まゆみ

高津区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	たかつ基幹相談支援センター	荒井 恒夫
2		中里 友
3		越智 貴子
4		栗野 まゆみ
5	くさぶえ地域相談支援センター	漆山 敬夫
6		小嶋 晃子
7		久富 かおる
8	地域相談支援センターゆきやなぎ	河村 裕孝
9		田子 洋平
10	地域相談支援センターいまここ	高松 信
11		井藁 元子
12	アズサケアサービス	飯塚 英市
13	フルライフスマートケア	河端 和彦
14		追川 由美子
15	地域生活支援センターカシオペア	目黒 裕子
16	社会復帰訓練所あやめ作業所	仁木 由紀
17	川崎市立養護学校地域支援部	堀口 晴子
18	県立高津養護学校	坂井 優里
19	高津区社会福祉協議会	渡辺 智子
20	児童発達支援事業所ドナルド	藤田 千鶴
21	川崎市中央療育センター	武藤 みや子
22	精神保健福祉センター	森江 信子
23	障害者更生相談所	竹原 由紀子
24		小嶋 和津江
25	高津区役所高齢・障害課	西野 利子
26		西川 洋一
27		三島 英雄
28		山崎 芽依子
29		中村 妙子

## 宮前区地域自立支援協議会

### <宮前区について（平成26年1月末現在）>

人口	:	223,455人
障害者手帳の取得者数	:	5,154人
身体障害者手帳		
療育手帳		1,260人
精神保健福祉手帳		1,384人

### <宮前区地域自立支援協議会の特徴>

- ① 保健福祉センターと相談支援事業所等を事務局とし、当事者の方、障害福祉サービス提供事業所、養護学校、療育センター、まちづくり協議会、社会福祉協議会と構成員が多岐にわたっています。現在、構成員は30名となっています。
- ② 検討課題を各専門委員会に分けて役割を明確にすることで活動を活発化させ、隔月1回の全体会議で報告し情報を共有しています。
- ③ 全体会や専門委員会の進捗状況の把握と運営のため、保健福祉センター・精神保健福祉センター・基幹相談支援事業所・地域相談支援事業所による事務局会議を月1回～2回開催しています。

### <今年度の目標と方向性>

- ・「暮らしやすさを一緒に考えていこう」を目標に取り組みます。
- ・支援者のみの視点での議論とならないよう、当事者が参加しやすいように、募集や参加の方法、会議の内容を検討します。
- ・専門委員会での活動については、昨年度の部会を引き継ぎ行います。専門委員会の中で出てきた課題は、全体で検討できるような機会を設けます。

#### ○重度障害・高齢専門委員会

- ・日中活動事業所職員を対象とした実態調査を昨年度、実施しました。この調査から明らかになった生活課題をもとに、利用者の方が抱えている暮らしづらさについて聞き取り調査を行っていきます。
- ・地域包括支援センターとの継続した交流会や、研修・広報・交流専門委員会と連携し、活動の周知や、役立つ講座などを実施していきます。

#### ○児童専門委員会

- ・具体的な不安の解消に向けて、家族を対象として勉強会の開催を検討します。
- ・教育関係者との連携を充実させていきます。
- ・ガイドブックの作成を行います。
- ・地域講演会への委員の参加を検討します。

#### ○研修・広報・交流専門委員会

- ・「地域でくらす」をテーマにして研修や交流会、広報誌『ほっととらいあんぐる』の発行などをします。広報の仕方などを工夫し、より多くの方に来ていただけるような企画としていきます。
- ・自立支援協議会や相談支援事業所の活動を知ってもらうため、区民祭への参加など周知に努めます。
- ・昨年度に引き続き、障害者サポーターの内容を検討していきます。

#### <今年度の区全体会議>

第1回 5月21日(火) 13:30~16:00

- ① 自己紹介
- ② 今年度の取り組みについて
- ③ 平成24年度 研修「住まいについて考える」の報告
- ④ 平成24年度 重度高齢部会アンケートの結果報告
- ⑤ その他

第2回 6月18日(火) 13:30~17:00

各専門委員会活動日※専門委員会によっては別日に開催もあり。

第3回 7月16日(火) 13:30~16:00

- ① 6月市自立支援協議会事務局会議報告
- ② 当事者参加方法(案)について
- ③ 各ワーキンググループについて
- ④ 6月各専門委員会報告
- ⑤ その他

第4回 8月20日(火) 13:30~17:00

各専門委員会活動日※専門委員会によっては別日の開催もあり。

第5回 9月17日(火) 13:30~16:00

- ① 市自立支援協議会事務局会議報告、依頼事項について
- ② 区専門委員会周知事項について
- ③ 下半期の予定や協力事項について
- ④ 課題整理アンケートの協議について(防災についてグループワーク)
- ⑤ その他

- 第6回 10月15日(火) 13:30~17:00  
各専門委員会活動日※専門委員会によっては別日の開催もあり。
- 第7回 11月19日(火) 13:30~17:00  
① 市自立支援協議会事務局会議報告  
② 基幹型連絡会議の報告  
③ 12月6日地域交流会の進捗状況について  
④ 2月4日研修会の進捗状況について  
⑤ 1月以降の区協議会の流れについて  
⑥ その他
- 第8回 12月17日(火) 13:30~17:00  
各専門委員会活動日※専門委員会によっては別日の開催もあり。
- 第9回 1月21日(火) 13:30~16:00  
① 当事者参加の見学者紹介  
② 市自立支援協議会事務局会議報告  
③ 2月4日研修会の確認について  
④ 課題整理の協議について(防災についてのグループワーク)  
⑤ その他
- 第10回 2月18日(火) 13:30~16:00  
① 地域福祉計画素案について(宮前区地域保健福祉課地域福祉係)  
② 市自立支援協議会事務局会議報告  
③ 2月4日研修会報告  
④ 今年度のふりかえりアンケート集計結果報告  
⑤ 次年度の計画について  
⑥ その他
- 第11回 3月18日(火) 13:30~16:00  
① 平成26年度 運営体制について  
② 平成26年度 年間計画について  
③ 各種報告  
④ その他

## ＜今年度のその他の活動＞

- ① 平成 25 年 7 月 31 日（水）  
宮前区児童家庭課と相談支援センターとの勉強会を実施。
- ② 平成 25 年 12 月 4 日（水）  
地域包括支援センターとの交流会に参加。

## ＜具体的な取り組み内容＞

### ○全体会議

- ・各専門委員会の報告と協議、市の自立支援協議会の報告などを行いました。
- ・課題を話し合う場として、グループにわかれ「防災」について意見交換を行い、次年度の取り組みについて話し合いました。

### ○重度障害・高齢専門委員会

- ・日中活動事業所職員を対象とした実態調査を昨年度、実施しました。この調査から明らかになった生活課題をもとに、利用者の方が抱えている暮らしづらさについて聞き取り調査を行いました。
- ・聞き取り調査の結果については、地域の方に知っていただけるよう、12月6日宮前区地域自立支援協議会主催の地域交流会で報告し、ご意見をいただきました。

### ○児童専門委員会

- ・平成 25 年 8 月 6 日 県内教職員向けの学習会で「福祉と教育の連携」をテーマに情報提供とグループディスカッションをしました。
- ・平成 25 年 8 月 20 日 西部地域療育センターの見学。
- ・平成 25 年 10 月 22 日 高津養護学校および地域の小中学校支援級保護者向けに行われた講演会で「福祉と教育の連携」をテーマに情報提供と意見交換をしました。
- ・平成 25 年 10 月 ふれあい Jr（子ども向け福祉の案内）No1 発行
- ・第 3 回川崎市地域自立支援協議会連絡会議にて、活動報告を行いました。

### ○広報研修交流専門委員会

- ・平成 25 年 10 月 1 日広報誌「ほっととらいあんぐる」を発行しました。
- ・平成 25 年 11 月 10 日 宮前区民祭に「なんでも相談会」を出店しました。
- ・平成 25 年 12 月 6 日 地域交流会「障がいのある方の『くらし』を考える」を開催し、当事者参加の説明や重度障害・高齢専門委員会の活動報告をしました。また、区内の施設で作る手作り品などの展示も行いました。



- ・平成 26 年 2 月 4 日 宮前区地域自立支援協議会・K I Sモデルエリア形成事業セミナー「住まいについて考える～このまちで暮らしたいパート2～」を開催し、当事者の方の生活を映像とインタビューで紹介、その他居住支援制度や住宅改修について、KISの福祉用具についても紹介いただきました。



### <次年度はこんなことします！…あるいはこんなことしたいな～>

- ・児童について、ふれあい Jr を 3 歳～就学前を対象に作成します。
- ・児童について、福祉と教育の連携について、今年度に引き続き夏期公開研修会等に講師を派遣します。また、区自立支援協議会としても保護者会向けに研修会を開催します。
- ・広報誌「ほっとらいあんぐる」を発行します。
- ・地域住民に向けて、相談窓口がわかるような取り組みを実施していきます。
- ・防災について、地域の方とワークショップの開催をしていきます。
- ・当事者参加について、当事者の方、またはその家族の方に構成員として参加してもらい、障害のある方の暮らしを一緒に考えていく体制を検討していきます。また、引き続き周知を行い、当事者の方の意見をくみ取れるような機会を設けていきます。

文責：みやまえ基幹相談支援センター

野原 篤

宮前区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	宮前区身体障害者協会	石山 春平
2	川崎市精神障害者連絡会	大窪 俊夫
3	いぬくら	秋山 明子
4	長尾福祉会	柳澤 弘毅
5	なごみ福祉会	渡邊 のり子
6		栗原 敦子
7	みずき	平木 眞利子
8	みずさわ	木村 隆史
9	みのり会	山中 淳子
10	宮前ふれあいの家	松浦 悦子
11	らぼおるの樹	大森 裕子
11	まちづくり協議会、地域教育会議	新安 裕美子
12	まちづくり協議会	小林 はるみ
13	麻生養護学校	西田 悦己
14		野呂 隆
15	高津養護学校	坂井 優里
16	宮前区社会福祉協議会	兵藤 美幸
17	西部地域療育センター	藤本 明國
18	地域ケア連絡会議	田邊 夕里
19	川崎市精神保健福祉センター	森江 信子
20	障害者更生相談所	藤井 隆
21	れいんぼう川崎	池田 英一
22	みやまえ基幹相談支援センター	野原 篤
23		北村 宏和
24		山本 望
25	地域相談支援センターシリウス	有泉 加代子
26		志戸 千代子
27	地域相談支援センターれもん	西坂 恵里
28		柏木 静子
29	地域相談支援センターポポラス	船井 幸子
30		中古 翠
31	宮前区役所高齢・障害課 障害者支援係	植木 美津枝
32		鈴木 健人
33		伊藤 朋也

## 多摩区地域自立支援協議会

### ＜多摩区について（平成26年1月末現在）＞

人口		213,348人
障害者手帳の取得者数	：	
	身体障害者手帳	4,703人
	療育手帳	1,125人
	精神保健福祉手帳	1,368人

### ＜多摩区自立支援協議会の特徴＞

- ① 今年度は新たに当事者3名、家族1名が加わり合計7名の当事者と3名の家族の方が全体会議と委員会に参加し活動しています。今年度から新たに当事者委員会を立ち上げました。
- ② 各構成員が課題整理表に基づいたテーマ別に4つの委員会に分かれて活動しています。その活動内容は隔月に行われる全体会議で共有しています。

### ＜今年度の目標と方向性＞

今年度も昨年度に引き続き「地域の人とつながりをつくる」を、協議会全体のスローガンとしました。「地域の人」とのつながりには、具体的な対象や目的が必要と考え、各委員会の中で検討を行います。

委員会活動は、昨年度からの4つの委員会を継続し、新たに当事者委員会を立ち上げました。また、昨年度に麻生区と合同で行ったケアホーム、グループホームへの調査のまとめは、課題整理とりまとめ係内より担当を選出し継続します。

#### ・各委員会の目標

- ① 日中活動委員会  
軽度知的障害者の交流会を継続します。  
日中活動先についての検討は、テーマを絞って行います。
- ② ライフサイクル委員会  
区内居宅介護事業所間の連絡会議を設定し特徴的なサービスなどの情報交換をします。  
どのようなニーズによりサービスが不足しているのか現状把握をします。
- ③ 災害委員会  
自助、共助、公助、のうち共助、に関する検討を中心に地域との繋がりを模索します。  
「おたすけカード」の普及・啓発を継続します。
- ④ 就労委員会  
就労についての視点の共有化のため事例検討を行います。  
川崎市での就労支援の現状を把握し多摩区でできることが何かを検討します。

⑤ 当事者委員会

新しい構成員が増え当事者同志お互いのことをもっとわかり合い、何かできることがあるのではないかと、協議会の内容などでわかりにくい部分があれば確認する場として活用する時間にしてほしいのではないかとということで立ち上げました。

**<今年度の区全体会議> 毎月第1火曜に実施**

報告を主とした会議月とグループ討議を主とした会議月を交互に行いました。

第1回 4月2日(火) 13:30~15:30 多摩区役所

今年度の自立支援協議会について

- ① 構成員自己紹介
- ② 自立支援協議会について(手引きを引用し説明)
- ③ 委員会 係について説明、希望表配布

第2回 5月7日(火) 13:30~15:30 多摩区役所

各委員会に分かれて着席

- ① 川崎市地域自立支援協議会の体制の説明
- ② 年間計画について
- ③ 各委員会顔合わせ、今年度の代表者決め、開催日調整等。

第3回 6月4日(火) 13:30~15:30 多摩区役所

- ① 各委員会・係名簿確認
- ② グループ討議「地域での困り感を共有する」  
KJ法を用い3グループに分かれて行う。

第4回 7月2日(火) 13:30~15:30 多摩区役所

- ① 各委員会 係の報告
- ② 6月のグループ討議のまとめを報告
- ③ 川崎市自立支援協議会事務局会議の報告

第5回 8月6日(火) 13:30~15:30 多摩区役所

- ① 予算の使用方法について
- ② グループ討議「情報」

- 第6回 9月3日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 各委員会・係の報告
  - ② グループ討議「情報」のまとめを報告
  - ③ 川崎市自立支援協議会事務局会議の報告
  - ④
- 第7回 10月 1日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 区パンフレット、たまネットについて
  - ② グループ討議「すまい」
- 第8回 11月 5日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 各委員会・係の報告
  - ② グループ討議「すまい」のまとめを報告
  - ③ 川崎市自立支援協議会事務局会議の報告
- 第9回 12月 3日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① グループ討議「余暇」
  - ② 協議会予算執行状況について
- 第10回 1月 7日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 各委員会・係の報告
  - ② グループ討議「余暇」のまとめを報告
  - ③ 協議会のアンケート配布 記入
  - ④ 川崎市自立支援協議会事務局会議の報告
- 第11回 2月 4日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 各委員会・係の報告
  - ② 次年度の体制について(アンケート集計途中経過、体制素案提示)
- 第12回 3月 4日(火) 13:30~15:30 多摩区役所
- ① 各委員会・係報告 まとめと次年度の取り組みについて
  - ② 自立支援協議会について次年度素案を提示しグループ討議
  - ③ 川崎市自立支援協議会事務局会議の報告

**<事務局会議> 毎月第3火曜午後に実施**

全体会議前に毎回開催しました。

全体会議にて報告する内容の確認、会議の運営方法や検討事項について話し合いました。

## ＜具体的な取り組み内容＞

### ・全体会議

2カ月に1回の割合で各委員会の活動報告を行いました。委員会以外の構成員から意見を出し合い、取り組み内容を修正したり、加えたりすることで、委員会がより一層テーマを深められるような場としました。

6月に、小グループに分かれて、KJ法を利用して多摩区内での困り感を出し合い、その結果を10の課題に区分けしました。8月は「情報」10月は「すまい」、12月は「余暇」をテーマとして小グループに分かれて討議しました。討議された内容は、課題整理取りまとめ係でまとめを行い全体会議で報告しましたが、次年度に取り組みができるかどうかは検討中です。

1月には構成員にアンケートを実施し、協議会の活動の振り返りと改善したい点を記入してもらい、次年度の体制作りへの参考としました。

### ・グループホーム・ケアホーム委員会（麻生区と合同開催）

昨年度グループホーム・ケアホームに関わる課題をテーマとし、同様の課題を持つ麻生区と共同で、両区内全グループホーム・ケアホームの入居者・世話人および管理者に対して実態調査をしました。そのまとめを25年度も引き続き麻生区と共同で行い、集計結果から課題を抽出して整理し冊子にまとめました。

### ・日中活動委員会

軽度知的障害者の余暇の過ごし方の一助として24年度より交流の場（みんなで交流会）を開催しています。今年度は合計5回開催し、最多で9名の参加がありました。回を重ねるごとに打ちとけ合い、街で出会った時も声を掛け合う仲になっているようです。また、大学のボランティアサークルにも声をかけて、一緒に交流会を盛り上げてもらいました。

もう一つの柱である日中活動先の検討については、入浴のできる事業所の一覧を作成することとなり、区内及び近隣の区の通所施設を対象にアンケートを実施しました。その結果の報告までは行い、更にリーフレットにして活用できるようにする予定です。



交流会参加者



多摩区役所1階 せきれいにて

・ライフサイクル委員会

サービス提供事業所がなかなか見つからない、などの課題があることから区内の居宅介護事業所に声をかけ「ヘルパー事業所のつどい」を開催し情報交換の場を設けました。障害者にヘルパーを派遣している事業所が集まることは初めてのことで、集まった事業所からは再度開催してほしい等の声が上がったため、第2回も開催しました。

・災害委員会

共助の取り組みとして、地域住民懇談会に出席し関わりのきっかけをつかみました。

23年度に作成した「おたすけカード」の更なる普及・啓発を図るため、多摩区防災フェアへの参加や多摩ふれあいまつり、パサージュ・たまでの配布を行いました。

紙質を再生紙から黄色の厚紙に変更したことにより、わかりやすいものとなり手に取る方が増えたようです。

DVD「逃げ遅れる人々」を購入し上映会を実施し、今後の課題について話し合いました。

・就労委員会

障害者の就労に関する現状を市の就労担当者より説明してもらい情報共有しました。

就労支援を行っている区内の事業所に声をかけ、就労定着支援についての事例検討会を開催し生活支援との連携について課題となっていることを確認しました。

・当事者委員会

自分たちで、できることは何かを話し合った結果、市が発行している「ふれあい」について当事者の視点から使いやすいものにしていきたいということとなりました。使いやすい「ふれあい」になるように意見をまとめています。次年度発行までに間に合う分だけでも意見として市へ提出したいと考えています。

誰もが住みやすい街をめざし、登戸周辺のバリアフリーマップの作成に着手しています。

## <係活動など>

① パサージュ・たま

- ・毎月1回、多摩区役所内1階連絡通路アトリウムにおいて障害者福祉施設、団体が紹介及び製品販売活動等を行っていますが、協議会でも広報・啓発を目的としてパネル展示をしました。

② 多摩ふれあいまつり

- ・毎年6月に多摩区役所内で開催される当イベントにおいて、広報・啓発を目的としてパネルの展示や協議会パンフレットを配布しました。

### ③ 広報担当

#### 1) 広報紙「たまネット」の発行

平成19年より発行していますが通算13号となる秋号を作成し、町内会での回覧と区内関係事業所に配布しました。

#### 2) 区自立支援協議会のパンフレットの作成、発行、配布。

#### 3) ホームページの立ち上げ

全体会議の内容や委員会の取り組みを掲載しています。

#### 4) 市協議会広報ワーキングへの参加

市協議会パンフレットの作成協力や各区の広報に関する情報交換をしました。

### ④ 課題整理取りまとめ担当

#### 1) グループ討議での内容をまとめて全体会議で報告しました。

#### 2) 市協議会課題整理ワーキングへの代表として2名参加しました。

#### 3) 麻生区合同GHCH委員会に、まとめの担当として2名参加しました。

#### 4) その他、課題全般の整理を行いました。

## <次年度はこんなことします！…あるいはこんなことしたいな～>

- ・全体会議に参加している構成員が、区内の課題に対する共通認識や情報交換等ができるような会議を目指します。そのためには小グループに分かれて、いろいろな方との意見を交換できるように組み立てていきます。
- ・各委員会においては、それぞれに挙がっている課題の解決に向け、より一層の推進をしていきます。
- ・多摩区の当事者参加の要項で任期は2年と定めているので、次年度は当事者募集を行う年となります。これまで参加されている方々の今後の協議会への関わり方や募集方法について検討します。
- ・相談支援事業所を主体とした研修や児童や高齢部門との地域連携をめざすネットワーク会議を行う予定で検討しています。

文責：たま基幹相談支援センター

牧田 奈保子

多摩区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	たま基幹相談支援センター	牧田 奈保子
2		白石 大樹
3		藍澤 温代
4	地域相談支援センター アベク	馬場 泰子
5		山下 義仁
6	地域相談支援センター いろはにこんぺいとう	尾崎 雄久
7		矢島 瑞穂
8	地域相談支援センター ドルチェ	酒井 路子
9		加藤 主力
10	神奈川県立麻生養護学校	西田 悦己
11		野呂 隆
12	紙ひこうき	吉良 和美
13		金森 孝之
14	かわさきさくら児童家庭支援センター	安藤 ユキ子
15	川崎西部療育センター	田幸 恵美
16		横川 輝美
17	サポートセンター ロンド	梅木 澄子
18		五十嵐 一明
19		遠藤 真紀子
20	多摩川あゆ工房	飯島 克己
21	多摩区社会福祉協議会	外記 佳子
22	ヘルパーステーション夢花	前田 大輔
23	北部地域療育センター	安藤 紀隆
24	北部リハビリテーションセンター 在宅支援室	安保 博史
25	百合丘就労援助センター	小崎 亜希子
26	百合丘障害者センター	根岸 葉子
27	多摩区役所高齢・障害課	富沢 美奈子
28		妹尾 栄美
29		草川 明子
30		一ノ瀬 敏世
31	当事者	関山 進
32		中込 義昌
33		火口 慎也
34		和田 正義
35		中村 美津子
36		古谷 学
37		渡辺 幾子
38	当事者家族	石橋 吉章
39		美和 とよみ
40		中沢 鞠子

## 麻生区地域自立支援協議会

### <麻生区について（平成26年1月末現在）>

人口		173,668人
障害者手帳の取得者数	： 身体障害者手帳	3,848人
	療育手帳	839人
	精神保健福祉手帳	974人

### <麻生区地域自立支援協議会の特徴>

#### ① 麻生区自立支援協議会の構成員について

相談支援事業所（4ヶ所）と保健福祉センターを中心として、障害福祉サービス提供事業所、就労支援機関、教育機関、障害者（児）の専門機関、区社会福祉協議会、地域包括支援センター、当事者の参加をしていただいて運営をしています。

#### ② 麻生区自立支援協議会の実施状況について

運営会議（月1回）と全体会議（月1回）を実施しています。

そのほか、各委員会で適宜打ち合わせや企画を実施しています。

運営会議では、相談支援事業所、保健福祉センターや専門機関が集まり、全体会議で行う内容や委員会の取組について確認を行っています。

全体会議では、①各委員会に分かれ、協議を進める月、②支援経過検証、当事者委員の自己紹介等、協議会全体で麻生区の課題の検討や見聞を深める月、を交互に行っています。

### <今年度の目標と方向性>

今年度の麻生区は、重点テーマとして、「麻生区の福祉ニーズについて、障害の各分野から支援経過検証を行い、麻生区の地域福祉の課題を整理していく。また、委員会の充実を図り、障害者（児）への支援をすすめていく」としています。

今年度は、川崎市相談支援事業再編に伴い、構成員が大幅に入れ替わっていますが、基本的には昨年度の体制を踏襲しつつ、実際の運営や活動を通して改善や提案を取り入れる様進めています。

### <今年度の区全体会議と委員会の活動について>

第1回 4月17日（水曜日） 13:30～16:00 麻生区役所にて

◎新年度について 各構成員の自己紹介。

◎区自立支援協議会各委員会の役割分担決め、今年度の活動方針の確認。

（課題整理委員会 児童委員会 当事者委員会 広報啓発委員会）

**第2回 5月15日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて**

- ◎麻生区地域自立支援協議会開催要項（案）読み合わせと確認。
- ◎川崎市地域自立支援協議会設置要綱、区協議会運営要領、運営の手引き内容確認。
- ◎市自立支援協議会事務局会議報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎区自立支援協議会各委員会協議。（協議後 参加者全員で協議内容の共有）

**第3回 6月19日（水曜日） 13：30～16：00 福祉パルあさおにて**

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎区自立支援協議会各委員会報告。
- ◎当事者構成員自己紹介。
- ◎地域課題の検討。（金銭管理について）

**第4回 7月17日（水曜日） 13：30～16：00 福祉パルあさおにて**

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎区自立支援協議会各委員会協議。（協議後 参加者全員で協議内容の共有）

**第5回 8月21日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて**

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎支援経過検証（日中活動事業所における相談支援の担当者がいない方の支援について）
- ◎区自立支援協議会各委員会報告。

**第6回 9月18日（水曜日） 13：30～16：00**

北部リハビリテーションセンターにて

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎区自立支援協議会各委員会協議。（協議後 参加者全員で協議内容の共有）

**第7回 10月17日（水曜日） 13：30～16：00**

北部リハビリテーションセンターにて

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎支援経過検証（家庭の支援が必要な児童だが、家庭からニーズが挙らないケース）
- ◎区自立支援協議会各委員会報告。

**第8回 11月20日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて**

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。

- ◎当事者構成員自己紹介。
- ◎区自立支援協議会各委員会協議（協議後 参加者全員で協議内容の共有）

#### 第9回12月18日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて

- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎支援経過検証。  
（相談支援紹介および実際、日中の過ごし方、遠隔地における課題、本人の感想）
- ◎グループ討議。

#### 第10回1月15日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて

- ◎児童委員会ピアサポーター紹介、意見交換。
- ◎市自立支援協議会事務局会議、ワーキンググループ報告。
- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎区自立支援協議会各委員会協議（年度まとめ：協議後 参加者全員で協議内容の共有）

#### 第11回2月19日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて

- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎平成25年度麻生区自立支援協議会のまとめ。

#### 第12回3月19日（水曜日） 13：30～16：00 麻生区役所にて

- ◎各事業所からの近況報告、企画案内等。
- ◎平成26年度麻生区自立支援協議会について。

### <具体的な取り組み内容>

#### ◎全体会議

今年度は支援経過検証（当事者構成員自己紹介を含む）と委員会活動を月ごとに交互に行っています。うち、支援経過検証については計3回実施しました（詳細は課題整理委員会の報告を参照）。また、当事者構成員の自己紹介については、計2回実施していません（こちらも詳細は当事者委員会の報告を参照）。このほか、1月には児童委員会で活動されているピアサポーターの紹介を実施し、互いに顔の見える関係ができるよう努めました。

#### ◎児童委員会

昨年度から引き続いて、児童保護者のピアサポート活動を企画しました。今年度は、昨年の活動を振り返り、小学校の特別支援級の保護者会の場で活動を行っております。ピアサポーターに対する研修を行い、平成26年2月には1校でのピアサポート活動を実施し、好評を得ることができました。

フローチャート作成は現在も作成を進めており、年度内に素案が完成する予定です。

#### ・当事者委員会

麻生区では平成24年度に初めて当事者構成員の公募を行い、現在4名の当事者が参加しています。今年度は「互いを知る」ことを目的に、当事者構成員自己紹介を実施し、委員会内でも事業所紹介を行うなど、相互理解を図りました。麻生区では当事者構成員の人数を8名としており、規定人数の参加を目指して今年度も公募を行いました。結果として6名の参加希望者の応募があり、応募者全員を来年度の活動に迎え入れることを決定しました。

今年度は募集が活動の中心となり、年度内で当事者委員の参加のあり方についてなどの十分な論議を行うには至りませんでした。当事者委員からは当事者参加のあり方というテーマにとどまらない、より具体的な地域課題の改善への取り組みへの参加が熱望されているところです。

#### ・課題整理委員会

今年度は、平成24年度に多摩区と共同で行ったグループホーム・ケアホーム調査の集計及び分析を行っており、今年度末には完成する予定です。

これまでに出版された麻生区の課題を検討すること、最新の生活課題を知る機会として、昨年度に引き続き支援経過検証を行いました。具体的には、全体会議の場で全体討議としてこれらのテーマを提供し、課題の検討を行いました。支援経過検証は、当事者委員の自己紹介と並んで好評を得た一方、その結果からはどのような地域課題が抽出できたか、その点の検討が不十分との声も多く、進め方に課題も残されました。

#### ・広報啓発委員会

今年度も民生委員児童委員協議会に出席し自立支援協議会の活動を紹介しました。

まずは民生委員、児童委員の皆様に対して全体的な周知を行うことを重視したため、各地区の民生児童委員協議会への出席を行うまでには至りませんでした。

広報誌については、今年度第1号を発行し、年度末に第2号を発行する予定です。

区協議会マスコットキャラクター「エール君」を、広報の各場面で取り入れ、協議会の区民に対する親しみやすさに努めています。

協議会参画事業所紹介小冊子の改定を進めていますが、来年度の早い段階に発行できる様、現在作成作業を進めています。

全体的には取り組む内容が多く、やや手を広げすぎた感もあり、進め方や体制に課題が残りました。



## ＜次年度の活動について＞

今年度は基本的に平成24年度の成果と課題に基づき、委員会構成も前年度を踏襲する形で活動を行ってきました。

全体として得られた成果は前記各委員会の報告のとおりですが、一方で前年度の体制を踏襲したがゆえに体制の形骸化が否めない、という反省点もありました。

次年度は前記反省点を踏まえたうえで、これまで麻生区地域自立支援協議会で標語にしてきた、「あ」たたかい 「さ」さえあい 「お」つきあい を今一度確認し、当事者委員が地域課題検討に対し、より主体的に参加、提言できる様、体制作りを重視していきたいと考えています。さらに、麻生区の地域課題とは何か、という原点に帰り、次年度初期の段階から、構成員それぞれが感じている地域課題の抽出及び整理を行い、それを基にして速やかに新体制を構築していきたいと考えています。

文責： あさお基幹相談支援センター  
          湊上 正道

麻生区地域自立支援協議会 構成員

	所 属	氏 名
1	あさお基幹相談支援センター	淵上 正道
2		田島 美幸
3		手川 房子
4		高橋 幸治
5	地域相談支援センター柿生	碓井 友紀
6		角山 正敏
7	地域相談支援センターそれいゆ	大場 幸
8		小松 江美
9	地域相談支援センターひまわり	望永 和美
10		戸室 映太
11	百合丘地域生活支援センターゆりあす	長尾 綾乃
12	百合丘障害者センター	根岸 葉子
13	北部リハビリテーションセンター 百合丘障害者センター在宅支援室	浦 雄司
14	北部地域療育センター	若井 宏真
15	県立麻生養護学校	小玉 美津子
16	麻生区社会福祉協議会	松永 剛
17	ひびき工房ペリ	高橋 不二雄
18	ひだまり工房	國米 リリ子
19	2にん3きゃく	坂爪 順
20	がぁでん・ららら ハーブカフェ・ららら	大友 わかさ
21	東百合丘タイムケアセンター	中村 光世子
22	障害児音楽コミュニケーション「YouYouクラブ」 片平タイムケアセンター	小幡 久美子 小幡 富士雄
23	川崎市柿生学園	堀 進一
24	地域包括支援センター（虹の里）	内井 義行
25	百合丘日中活動センター	安保 敦子
26	百合丘就労援助センター	小崎 亜希子
27	かわさきさくら児童家庭支援センター	中内 麻美
28	アルデンテ	矢野 淳一
29	しらかし園	中山 良介

30	働くしあわせ	市川 地歩
31	くりの丘	丸山 裕介
32	当事者の方	嶋田 晃
33		津田 維明
34		中野 義治
35		中川 達也
36	麻生区保健福祉センター（事務局）	松野 真樹子
37		村野 朋美

## 次年度に向けて

今年度の協議会運営は、事務局会議と運営会議の2つの会議を一本化するとともに、川崎市の相談支援事業の再編に伴い事務局のメンバーを、会長、各区基幹相談支援センターの主任相談支援専門員、市の担当者で担ってきました。今年度より事務局に設置した課題整理、連絡会議の企画・実施、広報の3つのワーキングにおける活動、区協議会における保護者の会の立上げや他都市の協議会への参加等、活発な活動により一定の成果をあげることができました。

次年度は、障害福祉計画への意見具申があり、協議会が取り組んできたことを発信するためのとても重要な一年になります。さらなる活発な活動が期待されますが、具体的には次のように運営していくこととしました。

### 1. 事務局について

障害福祉計画への意見具申に向けて、課題・整理ワーキングにおいて今年度のワーキングでの検討に各区協議会の意見を取り入れながら協議会としての意見をまとめます。進捗状況については、事務局を通して、随時各区協議会や全体会議に諮っていきます。

また、連絡会議の企画・実施ワーキング、広報ワーキングを今年度同様に設置し、活動していきます。

### 2. 全体会議について

今年度の全体会議は、委員の改選により新たなメンバーでのスタートとなりましたが、それぞれの立場から積極的に発言していただき、活発な議論ができました。各委員の貴重なご意見を広く伝えるために傍聴についての周知を行ってきましたが、来年度についても引続き行い、全体会議をより開かれた会議にしていきます。

### 3. 連絡会議について

次年度は、広報の期間を十分に確保するために年3回の開催を予定しています。テーマについては、今年度に引続き各区協議会の活動報告を取り上げ、活動の共有や周知を図ります。また、当事者と支援者が同時に壇上に立つ場面を設け、支援について改めて考えていく機会とします。

#### 4. 専門部会について

こども部会において、課題整理グループで集約された障害児をとりまく多岐にわたる地域の課題について議論していきます。併せて、今年度のこども部会で作成した障害児に関する相談先について整理されたリーフレットを川崎市に提案した上で、確定版発行後には継続的に活用状況を検証します。さらに、発達段階で切れない支援を行えるように本人又は家族が作成する「サポートノート」の検討も長期的に行っていきます。

また、相談支援部会は、「相談支援部会」と「研修部会」をそれぞれ独立した専門部会として設置します。「相談支援部会」では、相談支援ガイドブックの活用や相談支援事業に係る評価等に取り組み、「研修部会」では、相談支援従事者研修等による人材の育成のあり方の検討を含めた研修の充実に取り組んでまいります。

以上のように、次年度の協議会は活動していく予定となっておりますが、状況変化への対応や、より良い運営方法等を絶えず追求しながら、成果を出せる体制を整えていきます。

文責：川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害計画課  
矢部 恒平

## 編集後記

平成 25 年度は、川崎市による障害者生活相談支援センターから障害者相談支援センターへと相談支援体制の再編が行われた年度でした。

新たに受託した相談支援事業のさまざまな役割や業務の一つとして、地域自立支援協議会の運営が行われてきました。平成 18 年からの地域自立支援協議会の流れを引き継ぐ多くの相談支援専門員諸氏によって、本年度も綿々と 8 年目の運営がおこなわれてきました。

基幹相談支援センターの主任相談員諸氏は、殊更に多忙な業務の日々の合間を紡ぐように事務局会議やワーキングチーム活動、または各担当区で地域自立支援協議会の運営を担ってきました。また、基幹・地域に関わらず相談支援専門員の諸氏を筆頭に地域自立支援協議会へ参画された地域の関係機関や当事者の方々、また行政担当諸氏の広範な経験と深い知見による実績が記された 25 年度の活動報告書をぜひじっくりとお読みください。

年間活動報告書 編集担当  
あさお基幹相談支援センター  
高橋 幸治

川崎市地域自立支援協議会

平成 26 年 3 月作成